



画 情 義 齋

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

講

義

計

画

科 目 名			
世界市民－人権 (旧人権問題1 [人権問題概説])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	安 井 哲 章

【講義概要・学習目標】

この講義では、人権（基本的人権）がどのような過程を経て獲得され、今日保障されるに至ったのかを解説して行きます。人権保障の歴史を概観した後、今日的な権利であるプライバシー権や被害者の権利について検討します。

【講義計画】

この講義を通じて、「個人の尊厳とは何か」を考えてもらいます。

【成績評価の方法】

レポートと期末試験を総合して判断します。

【教科書】

なし

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
世界市民－世界市民の原像			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	山 川 偉 也
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

「世界市民」という言葉ははっきりとした歴史的刻印をもった言葉である。それは、紀元前4世紀末にシノペのデイオゲネスという男が最初に使った言葉「コスモポリターース」に由来する。その言葉がどのような歴史的背景や状況のなかで使われるようになったのか、デイオゲネスという男の生き様の解明を通じて考える。そしてその射程は現代にまで及ぶ広大なものであることを知ることになろう。

【講義計画】

デイオゲネス・ラエルテイオスの『ギリシア哲学者列伝』（岩波文庫）に拠りながら、デイオゲネスに関するさまざまな逸話に含まれている「世界市民」主義的思想を読み解いていく。そのなかで、現代に生きるわたしたちが直面しているさまざまな問題を考えるべきヒントを探っていく。

【成績評価の方法】

受講態度、レポート、試験等の結果を元にして、総合的に判定する。

【教科書】

別になし。読書指導を行う。

【参考文献】

デイオゲネス・ラエルテイオス・加来彰俊訳『ギリシア哲学者列伝』（中巻）（岩波文庫）

さ
行

科 目 名			
世界市民－世界についての想像力			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	岩 津 洋 二
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

「世界市民」の定義は簡単ではない。しかし、他の世界、他の人生について思い描く意欲と能力がなければ、世界市民であることができないのは確実である。想像力は、世界市民の前提であるだけでなく、人間が自由であることのあかしでもある。

この講義は、今日の日本社会では眠りがちな想像力を刺激して、自分の世界を広げ、自己中心世界のくびきから脱するきっかけとなることをめざしている。他の世界、他の人生を描いたドキュメンタリーなどを利用して、この目的を追求したい。

【講義計画】

- I 想像力とは何か
 - II 想像力の欠如の病弊
 - III ジョン・レノン『イマジニ』
 - IV 他者とは何者か
 - V 世界では何が起きているか
- (第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す)

【成績評価の方法】

講義への参加度・提出物・テストによる総合的評価

【教科書】

とくになし

【参考文献】

授業中に適宜指示する

【備考】

<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－世界を考える世界地図			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	上 野 勝 男

【講義概要・学習目標】

いまは、世界の各地での様々な出来事がテレビやインターネットなどを通じて、リアルな映像とともにほとんど時間差がなく伝えられ、知ることができます。でも、私たちは本当に世界の出来事を「理解」できているのでしょうか？世界の「姿」を、そして私たちとの「つながり」を的確にとらえているのでしょうか？そんな不安のあらわれでしょうか、様々なトピックをとりあげて、世界の国々がどうなっているのか、日本との関係はどうなのかを図解したいろいろな世界地図が売られています。この講義もそうした「世界地図」のひとつです。

この講義でもおもに考えていこうとするのは、グローバリゼーションという地球規模での経済の変化と「貧しさ」の問題です。インターネットをはじめとする情報技術の進歩が明るく豊かな未来をつくりだすといわれながら、他方では世界のいくつかの地域ではその未来どころか一日一日を生きていけるかどうかさえおぼつかないたくさんの人々がいます。まず、こうしたパラドキシカルな世界の姿を様々なトピックごとに図解的につかみましよう。そして、私たち日本と「貧しさ」は関係ないのか、どうすれば世界の国々の共存と共栄は可能なのかをいっしょに考えていきましょう。

【講義計画】

講義テーマにかかわるトピックを図示した「世界地図」を適宜資料配布します。授業はそれをもとに進めていきます。

【成績評価の方法】

- 出席を重視します。
- レポートを課すことも予定しています。
- 第1回目の授業で詳しく話しますので、よく注意してください。

【教科書】

とくに定めません。随時参考文献を紹介しします。

【備考】

<02～05生>
世界市民科目として、J生対象外

科 目 名			
世界市民－戦争と障害者 (旧人権問題Ⅰ [人権問題概説])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	生 瀬 克 己

【講義概要・学習目標】

20世紀は戦争の世紀であったといわれるが、わが国の歴史をみても、20世紀の前半は特に「戦争の時代」との様相を呈している。このような戦争の時代に、「傷痍軍人」とよばれた戦争がつくりだす障害者があらわれる。この「傷痍軍人」をキーワードにして、戦争の歴史をみていくと、何がみえてくるのか。それがこの講義のテーマである。

【講義計画】

戦争で障害者になるというのは、いったい、何を意味していたのか。それを歴史的にみていくと、そのようなことになるのか。それは人々のなかに何を残したのか、また、何も残さなかったとすれば、それは何故なのか。そうしたことを考える講義にしたいと思う。

【成績評価の方法】

各講義ごとの各学生の受けとめ方を大切にしたい。それゆえ、出席重視を前提とした評価となる。

【教科書】

特に指定はしません。

【参考文献】

必要なときに適宜紹介します。

科 目 名			
世界市民－日本という「場所」から考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	深 澤 徹
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

「市民社会」の歴史文化的伝統を徹底的に欠きながら、明治になってあわててそれを外部から輸入し、そこから新たな近代社会を立ち上げてきた私たちにとって、ついには借り物でしかない「市民」という自意識をどのようにして身につけ、それを己のものにしていったらいいのであろうか。「世界の市民」が、日本の社会に、そして日本人の自意識にどのように「受け入れられ」、あるいは「受け入れられなかったのか」を考えつつ、その体験を現在にどう生かしていけるのかを、受講生と共に考えながら講義を進めて行きたいと思う。これといった正解は無いのだが、「武士道」にそのヒントを求めていきたい。

【講義計画】

1. 桃山学院大学の「世界の市民」という建学の理念について考える。
2. 「世界の市民」という概念の近代日本への導入過程を考える。
3. 「世界の市民」の対応物を日本の文化伝統の中に探る。
4. 日本の文化伝統に立脚しながら「世界の市民」として行動する方法を考える。

【成績評価の方法】

毎回出席を取るなのでその出席状況と、2回行う予定の教場試験で、総合的に評価する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

教場で指示する。

【備考】

<02～05生>

世界市民科目として、J生対象外

さ
行

科 目 名			
世界の英語			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中で最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。インドのように、英語を準公用語にしているところもある。英語の国際化は、一方では英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場している。一昔前までは、主要な英語はイギリス英語とアメリカ英語で、その違いだけが注目されていた。しかし今では、イングランドの周辺だけでも、スコットランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語がある。イングランドから遠く離れた地域にも、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、カナダ英語、シンガポール英語などが存在し、無視するわけにはいなくなってきた。変わったところでは、「商取引き」のために生じた簡略されたピジン英語。アフリカの「シエラレオネ」のフリータウンでは、そのピジン英語を母語とするクリオール語さえ誕生している。一つだった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、その地域の言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

【講義計画】

1. 英語の歴史
2. イギリス英語
3. スコットランド英語とウェールズ英語
4. アイルランド英語
5. オーストラリア英語とニュージーランド英語
6. 南アフリカ英語
7. アジアの英語
8. カナダ英語
9. アメリカ英語
10. ピジン英語

【成績評価の方法】

試験、出席

【教科書】

授業中に指示する

【参考文献】

授業中に指示する

科 目 名			
世界の文化Ⅲ－インド説話と東方世界			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	村 上 昌 孝

【講義概要・学習目標】

インド説話の東方への伝播を例として、古代世界の地域間交流の問題を取り扱いたい。

インド（南アジア）は、地理的条件から、他の地域から隔絶され、独自の文化を育んできた。その一方で、仏教のアジア諸地域への流布や、海上交易などを通じて、外部の諸地域と互いに影響し合ってきた。インドから外部への影響の一つが、インド説話の伝播である。

民間で発生し伝承された説話は、インドでは、古くからテキストとして固定された。紀元前には、宗教文献で、儀式的説明や一般への布教のため、説話に宗教的な要素が加味され、採用された。紀元後になって、説話自体に関心が寄せられ、多くの説話集が編集されるようになった。

インド説話は、主として仏教経典を通じて伝播した。仏教の1派である大乘仏教の経典（大乘仏典）は、インドから中国に伝えられて漢訳され、日本にも伝わった。その中に含まれていた説話に着目した人々は、それを抜き出して説話集に採録し、いくつかは、再び、民間の説話として土着するにいたった。ただし、説話が諸地域を伝わる際、理解の困難さなどから、多くの改変が施された。説話の伝播と改変から、地域間交流とその限界を明らかにしたい。

【講義計画】

説話を取り上げる前提として、インド世界に特徴的な事象の説明から始めたい。インド説話には、ヒンドゥー教の宗教観・社会制度・風習が色濃く反映しており、これらを理解することによって、初めて、インド説話が他の諸地域で改変を被った理由が分かるからである。

インドと他の地域との交流を扱った後、具体的な説話を例として取り上げる。その際、インドの元の説話と、他の地域に伝わった説話とを用意し、両者の比較を試みる。最初は、説話の比較方法の説明に終始することになるだろうが、いずれは、受講者にも、説話の改変の発見と、その理由の追究とを求めたい。

【成績評価の方法】

授業への参加と、レポートとによる。

【教科書】

授業中に配布する。

【参考文献】

岩本裕『仏教説話の源流と展開』、東京、1978。
田中於菟弥『酔花集 インド学論文・訳詩集』、東京、1991。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
世界の文化Ⅲ－インド説話と西方世界			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	村 上 昌 孝

【講義概要・学習目標】

インド説話の東方への伝播を例として、古代世界の地域間交流の問題を取り扱いたい。

インド（南アジア）は、地理的条件から、他の地域から隔絶され、独自の文化を育んできた。その一方で、仏教のアジア諸地域への流布や、海上交易などを通じて、外部の諸地域と互いに影響し合ってきた。インドから外部への影響の一つが、インド説話の伝播である。

民間で発生し伝承された説話は、インドでは、古くからテキストとして固定された。紀元前には、宗教文献で、儀式の説明や一般への布教のため、説話に宗教的な要素が加味され、採用された。紀元後になって、説話自体に関心が寄せられ、多くの説話集が編集されるようになった。

インド説話は、西方へは、主として、中世イスラム商人の交易活動を通じて伝播した。インドの説話集自体が翻訳された場合もあるし、単独の説話が紹介された場合もあるが、いずれにしても、インド説話がイスラム世界に紹介され、更にはヨーロッパへと伝わった。その中のいくつかは、再び、民間の説話として土着するにいたった。ただし、説話が諸地域を伝わる際、理解の困難さなどから、多くの改変が施された。説話の伝播と改変から、地域間交流とその限界を明らかにしたい。

【講義計画】

説話を取り上げる前提として、インド世界に特徴的な事象の説明から始めたい。インド説話には、ヒンドゥー教の宗教観・社会制度・風習が色濃く反映しており、これらを理解することによって、初めて、インド説話が他の諸地域で改変を被った理由が分かるからである。

インドと他の地域との交流を扱った後、具体的な説話を例として取り上げる。その際、インドの元の説話と、他の地域に伝わった説話とを用意し、両者の比較を試みる。最初は、説話の比較方法の説明に終始することになるだろうが、いずれは、受講者にも、説話の改変の発見と、その理由の追究とを求めたい。

【成績評価の方法】

授業への参加と、レポートとによる。

【教科書】

授業中に配布する。

【参考文献】

中野義照訳『インドの学術書（ヴィンテルニッツ インド文献史 第6巻）』、和歌山、1966。
田中於菟弥『酔花集 インド学論文・訳詩集』、東京、1991。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
世界の文化Ⅲ－鬼と日本文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	三 浦 俊 介

【講義概要・学習目標】

中国の「鬼」は目に見えない死霊のことであるが、日本ではやがて角のある異形のモノの代名詞となった。鬼は日本古来の自然観・霊魂観などと複雑に関連して、有形無形の文化の中で多種多様な展開を示した。本講義では、言葉・図像・祭儀・文学などから多角的にアプローチして「鬼」の本質と変遷を考察したい。

【講義計画】

講義は以下の内容で進める予定である。

- 1、おに・かみ・もの
- 2、言語①鬼の漢字学
- 3、言語②鬼の翻訳
- 4、図像①鬼瓦と鍾馗
- 5、図像②邪鬼と十羅刹女
- 6、図像③掛け軸・絵巻・絵本
- 7、祭儀①鬼門の呪術
- 8、祭儀②節分の豆まき
- 9、祭儀③花祭りの神鬼
- 10、文学①伊勢物語「鬼一口」
- 11、文学②今昔物語集「鬼殿」
- 12、文学③徒然草「くしゃみの呪文」
- 13、文学④軍記物語「鬼切丸」
- 14、文学⑤お伽草子「酒呑童子」
- 15、鬼と日本文化

【成績評価の方法】

- ①定期試験の成績を重視する（7割）。
- ②毎回出席を取り、評価の参考にする（3割）。

【教科書】

特に定めない。毎回プリントを配布する。

【参考文献】

小松和彦ほか『鬼がつくった国・日本』光文社、1991年
芳賀日出男『ヨーロッパ古層の異人たち』東京書籍、2003年
六車由実『神、人を喰う』新曜社、2003年
志村有弘『羅城門の怪』角川書店、2004年
萩原秀三郎『鬼の復権』吉川弘文館、2004年 ほか多数

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
世界の文化Ⅲ－笑いの日本文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	三 浦 俊 介

【講義概要・学習目標】

この講義では「笑い」について学術的に考えてみたい。近年まで大学で「笑い」や「遊び」を教えたりはしなかった。しかし、心を病んだ人たちが増えてきた現在、日本人には人間性の回復が求められる。「笑い」が人間の心身をリラックスさせ、免疫力を高めて病気を直す効果があることが学術的に明らかにされてきた。いや、堅苦しいことはどうでもいい。大阪では、オバハンも、ガキも笑いに包まれて生きている。大学において笑いながら教え、学ぶことは可能なのか、ぜひ試してみたい。同じ大学生活を送るのなら、笑って暮らせるのが一番じゃないか。今年は真面目に「笑いの大学」を目指したい……って言うじゃない。でも、既にホラ吹いてますから、残念。

【講義計画】

講義は以下の内容で進める予定である。

- 1、笑いの日本文化
- 2、かっぱかっぱらった（ことばあそびうた）
- 3、母に再びあうものななに？（なぞなぞ）
- 4、ハラハラバラバラバラバラ（オノマトペ）
- 5、脳味噌の中に海がある（物の名・アナグラム）
- 6、鬼のむく林檎の香り 雲の庵（折り句）
- 7、隣の家に囲いができたってね（駄洒落）
- 8、地球はプレーンヨーグルト味（五感を混ぜる）
- 9、おじやる丸でおじやる（アニメと役割語）
- 10、一休さんのひとやすみ（傾知話と公案）
- 11、鳥獣戯画 ～ いしいひさいち（漫画・マンガ）
- 12、下ネタ・パレ晰・艶笑譚
- 13、狂言・万歳・マンザイ
- 14、ワープロの御返還（誤変換）
- 15、同じ人生なら笑って暮らそう

【成績評価の方法】

- ①定期試験の成績を重視する（6割）。
- ②毎回出席を取り、提出物も課す（4割）。

【教科書】

特に定めない。随時プリントを配布する。

【参考文献】

鈴木棠三『新版ことば遊び辞典』東京堂出版、1981年
 ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』講談社、1990年
 鈴木清隆『「ことば遊び」で国語教育を楽しく』明治図書出版、1994年
 上野富美夫『回文ことば遊び辞典』東京堂出版、1997年
 小野恭靖『ことば遊びの文学史』新典社、1999年
 小林祥次郎『日本のことば遊び』勉誠出版、2004年
 いわむらかずお『かんがえるカエルくん』（現在4巻）福音館書店
 ほか多数

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
専門資料論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

学術文献と一般資料との違い、分野による学術文献の特徴、学術文献の利用方法などについて解説する。

【講義計画】

1. 学術文献とはなにか
2. 学術文献の種類と特徴
3. 学術雑誌の歴史
4. 学術における不正
5. 二次資料
6. 学術文献のデジタル化
7. 百科辞典

【成績評価の方法】

平常点と最終テストとを総合して評価する。

科 目 名			
総合人間学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

20世紀に多くの学問で専門分野の細分化が起き、さまざまな「学」が生まれた。しかし、個別の「学」では、今日の人類が直面する地球環境、人口、教育、人権などの諸問題に十分答えることができない。21世紀には、学際的な人間に関する、新たな総合学が必要とされる。

この講義は上述のような学問的要請に応じて、複数の講師によって行われる「インテグレーション」科目として実施される。自然科学と人文・社会科学の最新の研究成果を踏まえながら、新たな学際的総合教育をめざす。ここで人間とは、生物種ヒトとその文化の双方を含み、現代文明のもとでさまざまな問題に直面しながら、科学・技術、法律、教育、芸術、宗教などを生み出している主体ととらえる。文化の多様性・相対性を認めつつも、異なる文化を持つ人々の間での共通性を解明することによって、ヒューマニズムとは何かという人間学の目標にも迫っていききたい。

【講義計画】

複数の講師によって実施されるインテグレーション科目で、内容は次のとおりである。

1. ヒト学入門：自然におけるヒトの位置、ヒトの行動の進化、ヒトの地理的多様性の理解
2. 異文化理解：東西文化の特徴と地理的条件、民族性、文化摩擦と国際交流の理解
3. 人間思想史：東西の哲人が語った人間像の理解と、人間理解の哲学的アプローチの理解
4. 国際人権論：アイヌをはじめとする世界の少数民族と先住民の文化と歴史・現状、インド・日本などにおける身分差別の歴史と現状、人権に関わる国連の活動と国際法の理解
5. 文学とヒューマニズム：愛・孤独・不安・挫折・苦悩等とヒューマニズム文学作品のもつ人間性へのメッセージの理解
なお、私語は厳禁。私語した場合、直ちに退室を命じる。また、15分たってからの入室は、正当な理由がないかぎり、認めない。

【成績評価の方法】

期末試験の点数に出席点を加味して総合的に評価する。

【教科書】

適宜、資料を配布する。

【参考文献】

尾本恵市『ヒトはいかにして生まれたか』岩波書店、1998年

【備考】

インテグレーション科目
<02~04生>
共通自由科目として、LE・L1生対象外

科 目 名			
卒業論文 [SW]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	〈春〉 上野谷 加代子 〈秋〉 小 西 加保留
02	通期	4	〈春〉 栄 セツコ 〈秋〉 郭 麗 月
03	通期	4	〈春〉 坪 山 孝 〈秋〉 黒 田 隆 之
04	通期	4	〈春〉 松 端 克 文 〈秋〉 安 原 佳 子

【講義概要・学習目標】

3回生の演習で積み上げてきた学習を深め、卒業論文という形にして書き上げることを目的とする。そのため、この講義では、各自、研究したいテーマを設定し、それに基づき、参考文献の紹介および探し方、論文の書き方等に関して、指導する。

基本的には、個別指導あるいはグループ指導とする。

【講義計画】

春学期：テーマの設定・参考文献の収集・論文の骨子の組み立てをし、中間発表会を行う。

秋学期：卒業論文を完成させる。

【成績評価の方法】

卒業論文の内容で評価する。

【教科書】

適宜紹介

【参考文献】

適宜紹介

さ
行

科 目 名			
卒業論文 [SW]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

「児童福祉」に関する卒業論文作成希望者を受け入れる。児童福祉分野には、養護問題、虐待問題、少子化問題、保育問題、心身障害問題、非行問題、健康問題、年少労働問題、遊び場問題などさまざまな福祉課題が包摂されるが、これらの福祉課題のうち、心身障害問題及び健康問題については、専門的にみて小生より適切な先生がたが担当される卒業論文講座へ登録すべきである。本講座は、上記の児童福祉課題（障害問題及び健康問題を除く）に関する卒業論文作成の過程を通して児童福祉の専門的理解を深めることを目標とする。なお、本講座は、他の講義と同様、毎週1回時限を決めて実施する予定である。

【講義計画】

【春学期】この期は、講義概要に記したような種々の児童福祉課題の中から受講生各自が興味を抱く課題（テーマ）に関する文献を自ら収集して、それらを読み咀嚼して毎回レポート（2～3枚）にまとめ、それを受講者全員に提出し発表することが義務づけられる。発表者は、学籍番号順に毎週3～5人が順次担当することとなる。（その意味で、出席が重視され、多欠席者は自ら除籍される。）

【秋学期】後期にも受講生のレポート作成及び発表は継続して行われるが、それと並行して春学期末に提出された「章立て」（卒論の骨子となる章及び節）の肉付け作業（論文執筆作業）が開始される。この作業については、担当者から受講生に対して個別的・集団的指導が行われる。

【成績評価の方法】

- ・出席状況と提出レポート数（発表回数）で評価する。
- ・出席重視（欠席8回で除籍が目安となる。）

【教科書】

特になし

科 目 名			
村落社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	清 水 由 文

【講義概要・学習目標】

都市民は農業、農村社会と食料供給源として間接的にかかわっているに過ぎない。しかも日本の食料需給率はカロリーベースで40%であり、これは欧米諸国と比較するときわめて低く、それが大きな社会問題なのである。そこで日本の農業、農村は世界的グローバル化のなかでどのように変化してきたのか、どのように対応してきたのかを農業・農村・農民の視点と消費者である都市民の視点からとらえる必要がある。本講義では日本の農業、農村の変化とその生活基盤である農村社会の特質を農民と都市民の関係から考えたい。

【講義計画】

1. 第2次大戦前の日本の農村の特質を考える
 2. 戦後農地改革による日本の農村の変化をみる
 3. 高度成長経済における日本農村の変化をみる
 4. 現代日本農業と農村の現状を考える
 5. 食料需給率の低下を旧農業基本法と新農業基本法からみる
 6. 主食である米問題を新食糧法による農業の変化と消費者の問題から考える
 7. 環境から農業と食問題を考える（遺伝子組み換え、BSE）
 8. 都市民と農民の接点としてのグリーン・ツーリズムをみる
 9. 日本の農村社会を村落という視点からみる
 10. 村落の構成している農民を家族からとらえる
 11. 日本農村を親族集団から考える
 12. 日本の農村社会を地域的視点から考える
 13. 日本の農村社会の仕組みをその組織や運営から考える
- 以上のテーマに対して適宜ビデオを用いることにより視覚的に理解できるようにしたい。

【成績評価の方法】

試験、講義中の小レポートにより総合評価する

【教科書】

使用しないが講義時に資料を配布する。

【参考文献】

1. 『食料・農業・農村白書』平成15年版
2. 山下惣一『農から見た日本、ある農民作家の遺書』、清流出版、2004.
3. 山下惣一『農のモノサシ』創森社、2003.
4. 山下惣一『産地直想』創森社、2002.
5. 山下惣一『身土不二の探求』、創森社、1998.
6. 鳥越皓之『家と村の社会学』、世界思想社.

科 目 名			
大学生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

このクラスは、編入学生諸君を対象として開講されるものです。本セミナーでは、編入学生諸君が桃山学院大学を理解し、これに慣れ親しむことを目標とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できるようになること、および、講義やゼミで経営学に関する専門的な学習や研究を進めるための基礎的な力を身につけることを、主要な目的とします。

＜学習目標＞

1. 編入学生にとって必要な基礎的学習テクニック（レポートやレジュメの作成、演習での発表の仕方など）を習得する。
2. 経営学に関する文献を熟読し、その要約を作成する。
3. 経営学に関する基礎的な知識を身につける。

*全回出席を原則とします。

【講義計画】

- 第1回 演習の概略説明
- 第2回 図書館オリエンテーション
- 第3回 情報センターオリエンテーション
- 第4回 新聞記事の要約（1）
- 第5回 新聞記事の要約（2）
- 第6回 専門的な文献の要約（1）
- 第7回 専門的な文献の要約（2）
- 第8回 専門的な文献の要約（3）
- 第9回 プレゼンテーションについて
- 第10回 発表会：報告と討論（1）
- 第11回 発表会：報告と討論（2）
- 第12回 発表会：報告と討論（3）／本演習のまとめ

*授業の順序を入れ替える場合があります。
また、演習生との相談により内容を変更する場合があります。

【成績評価の方法】

出席状況、演習への参加・関与の状況、宿題やレポートの状況などにより総合的に評価します。

【教科書】

大沢武志『経営者の条件』岩波新書、2004年

【参考文献】

大野 晋『日本語練習帳』岩波新書、1999年。
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
その他、必要に応じ適宜指示します。

【備考】

編入生用

科 目 名			
大学生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	春学期	2	牧 野 丹 奈 子

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達のを作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

＜学習目標＞

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

この授業は留学生用の授業です。
次のようなことを日本語で勉強します。

1. 本や新聞をしっかりと読む
2. 読んだ内容をレポートにまとめる
3. 読んだ内容を、わかりやすく説明する
4. 人の話を聞きながら、メモをとる
5. 自分の考えを話して、他人の意見に対する感想を話す

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

留学生用

さ・た・行

科 目 名			
大学生生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期	2	清 水 信 匡

【講義概要・学習目標】

【講義概要】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献講読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献講読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

AO生用

科 目 名			
大学生生活入門セミナー			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	春学期	2	今 木 秀 和
05	春学期	2	片 岡 信 之
06	春学期	2	小林 哲 夫
07	春学期	2	小林 哲 夫
08	春学期	2	鈴木 幾 多 郎
09	春学期	2	鈴木 幾 多 郎
10	春学期	2	武 田 久 義
11	春学期	2	清 水 信 匡
12	春学期	2	清 水 信 匡
13	春学期	2	野 田 俊 範
14	春学期	2	正 村 正 造
15	春学期	2	正 村 正 造
16	春学期	2	村上 伸 一
17	春学期	2	村 上 伸 一
18	春学期	2	松 尾 順 介
19	春学期	2	松 尾 順 介
20	春学期	2	松 尾 順 介
21	春学期	2	谷 口 照 三
22	春学期	2	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つの基礎的スキルを向上させながら、大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

<学習目標>

- 1 講義におけるノートの取り方を学ぶ
- 2 レジュメの作り方を学ぶ
- 3 発表・報告・討論の仕方を学ぶ

*全回出席を原則とする。

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 図書館 オリエンテーション
- 第3回 情報センター オリエンテーション
- 第4回 ノートの作り方(ミニ講義)(1)
- 第5回 ノートの作り方(ミニ講義)(2)
- 第6回 ノートの作り方(ミニ講義)(3)
- 第7回 大学生活及び入門セミナーについての意見交換
- 第8回 報告の仕方(文献講読と発表)(1)
- 第9回 報告の仕方(文献講読と発表)(2)
- 第10回 討論(1)
- 第11回 討論(2)
- 第12回 本授業の反省会とカリキュラムの説明

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

【教科書】

適宜指示します

【参考文献】

適宜指示します

科 目 名			
地域経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

日本近代都市の形成と展開について、戦後の高度経済成長期までたどる。そして、現代都市の諸問題を考えたい。その際に、主な対象となるのは大阪である。講義室を友人の交流・団欒の場と心得る諸君の入室を厳禁する。つまり、私語は禁止である。

【講義計画】

1. 日本近代都市の形成
2. 1920・30年代の都市
3. 都市における戦前と戦後
4. 高度経済成長期の都市
5. 現代都市の課題

【成績評価の方法】

講義時の小レポート、期末試験。

【教科書】

芝村 篤樹 著『都市の近代・大阪の20世紀』（思文閣出版）

【参考文献】

必要に応じて指示する。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
地域研究 I (旧地域研究 I - 欧米の政治と社会)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	捧 堅 二

【講義概要・学習目標】

今日の世界をアメリカとイギリスを中心に考察する。

わたしはある留学生から「日本のよいところは何か」とたずねられたことがある。わたしは「何もない。悪いところばかりだ」と答えた。しかし、わたしは次のように付け加えた。「一つだけマシなところがあるとすれば、それは謙虚に諸外国に学ぶところである。しかし、最近の日本人は（以下略）」と。講義の中にそのような視点も入れておきたいと思う。

【講義計画】

- 1 大国・超大国・アメリカ
- 2 2004年大統領選挙
- 3 「新しいモラル」の時代—人道的介入、反「キツネ狩り」
- 4 宗教の復活？
- 5 NPOとアソシエーション
- 6 民主主義のモデルとしてのイギリス
- 7 ルーズヴェルトと民主党
- 8 「トライアングレーション」とは何か。
- 9 イギリス君主制と共和制論議
- 11 民主主義のモデルとしてのイギリス
- 12 陰謀論批判
- 13 パレスチナ問題とアメリカ
- 14 イラク戦争と米英
- 15 アメリカと朝鮮半島
その他

【成績評価の方法】

- ①レポート数回
- ②定期試験

【教科書】

使用しない

【参考文献】

講義の際に、随時、参考文献をあげる。

【備考】

<02・03生>

共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
地域研究Ⅱ (旧地域研究Ⅱ(ロシア・東欧の政治と社会))			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	鈴木博信

【講義概要・学習目標】

- I. ソ連の東欧支配はどのようにして成立したか？
- II. 東欧諸民族は、これにたいしどのように抵抗し、自立をもとめたか？
- III. 最後は、どのように東欧諸国がクレムリンの支配からはなれたか？ソ連本体はどうなったのか？

そして、ロシアの今は？

政治は「共産党の一党支配」、経済は市場経済を排した「命令経済」で成立していたソビエト帝国が、70年あまりの短命で崩れ去ったのは、なぜか。この問いを念頭にして、上記の順序で話をすすめたい。

【講義計画】

1. 「新帝国」の誕生—だが、はやばやと亀裂 (1948)
2. ポーランドの10月、ハンガリーの10～11月 (1956)
3. 「プラハの春」から「戦車の夏」—流産したペレストロイカ (1968)
4. 「古典的労働者革命」は社会主義国でおきた (1980)
5. 「ゴルバチョフ・ファクター」と東欧
6. 帝国本体も瓦解 (1991)
7. プーチンの時代—ロシア政治史のサイクル

【成績評価の方法】

1. 年度末試験またはレポート
2. 必要に応じて課す小レポート

【教科書】

随時参考文献を紹介

【参考文献】

- 山川出版社刊の「各国現代史シリーズ」のソ連、東欧各国史
- 川端香男里ほか「ロシア・ソ連を知る事典」平凡社
- 伊東孝文ほか「東欧を知る事典」平凡社
- 百瀬宏ほか「東欧—ヨーロッパⅠ」自由国民社
[巻末の文献案内がとくに便利]
- 南塚信吾編「東欧の革命と民衆」朝日選書
- マーティン・メイリア、白須英子訳「ソヴィエトの悲劇」草思社
- 江頭寛「ロシア—關の大国」、「プーチンの帝国」いずれも草思社
- アダム・ウラム、鈴木博信訳「膨張と共存—ソヴェト外交史」サイマル出版会

【備考】

<02・03生>

共通自由科目として、J生対象外

科 目 名			
地域福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	上野谷 加代子

【講義概要・学習目標】

1. 地域福祉の理念と内容について理解させる。
2. 地域福祉計画の意義と内容、地域福祉の推進方法について理解させる。
3. 地域福祉の現状について理解させる。

【講義計画】

1. 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
2. 現代社会と地域福祉
 - (1) 地域福祉理念の発達
 - (2) 概念と範囲
 - (3) 役割と意義
3. 地域福祉の構成
4. 地域福祉の推進方法
 - (1) 推進の基本的な考え方
 - (2) 地域福祉計画の意義と内容
 - (3) 市町村と社会福祉協議会の役割と住民参加の意義
 - (4) サービス提供組織とその運営方法
 - (5) 人材の構成及びその動員方法
 - (6) 財源の構成とその調達の方法
 - (7) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連帯のあり方
5. 地域福祉の現状と課題
 - (1) 現状と課題
 - (2) 政策課題
 - (3) 事例検討

【成績評価の方法】

授業時の小テスト

学年末テスト、レポート等により総合的評価

【教科書】

『地域福祉論』（新・社会福祉学習双書 第10巻 全国社会福祉協議会）

科 目 名			
地域文化概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	今 澤 浩 二

【講義概要・学習目標】

世界にはさまざまな地域があり、それぞれの地域にはその地域特有の「地域文化」が存在する。そうした「地域文化」はどうとらえるべきなのか、どのように見ていくべきなのか。

本講ではこうした問題について、トルコという地域を題材に取り上げて考察し、ひとつの地域の文化を見る上での視点を考えたい。

【講義計画】

1. 自然—トルコの自然と地理—
2. 宗教—イスラーム—
3. 歴史—トルコ民族史—
4. 現代社会の諸相—住民・宗教観・食文化・日本との関係—

【成績評価の方法】

授業中の小テスト、レポート、学期末試験。

【教科書】

なし。

【参考文献】

講義中に随時、紹介する。

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

地誌とは地理学における世界の諸地域の説明ですが、実際は中学社会および高校地理の授業内容を授業する科目です。高校で殆どの人が地理を履修していなかったと思いますが、高校地理レベルの知識が無いと、中学・高校の教員採用試験には絶対合格しません。そのため、高校レベルの地理の授業から学習します。大量の地名など、知識を暗記しなければならない、不合格となる率も高いので、2単位のスキマを埋めるために履修しないように、注意してください。

【講義計画】

中学社会・高校地理であつかう世界各国の地理について、問題集を解くかたちで授業します。予備校形式の授業です。

【成績評価の方法】

客観テストで採点します。定期期間内試験（期末テスト）1回の得点のみで厳正に成績をつけます。参考までに前年度の平均点は38点、合格率30%、不合格者は70%。出席は一切、成績に考慮しません。教職に関連する科目であるために、安易に単位を出せないことを理解して、注意して履修してください。

【教科書】

地理ノート編集部『各国別地理ノート』山川出版社

【参考文献】

中学・高校で使用した「地図帳」（出版社はどこでもよい）を授業に持ってきていただければ幸いです。

た
行

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02 04	春学期 秋学期	2 2	佐々木 育 子

【講義概要・学習目標】

21世紀を生きる私達は、好むと好まざるとにかかわらず、世界の諸地域と関わりをもち、その動きに影響される。

諸地域は如何にして形成され、そこに住む人々は何を求め、どのように生活しているかを、この講義では見ていきたい。

(付)教員・公務員等の試験を受ける人のために、授業の一部で過去問を扱う時間も入れる予定。

【講義計画】

- 1 はじめに
- 2 朝鮮半島
- 3 アメリカ合衆国
- 4 EU諸国
- 5 ロシアと旧ソ連邦諸国
- 6 西アジア・パレスチナ・イラクを中心にー
- 7 アフリカの国々
- 8 オーストラリア
- 9 ラテンアメリカ・ブラジルを中心にー
- 10 ASEAN諸国
- 11 中国
- 12 日本
- 13 おわりに

【成績評価の方法】

定期試験(論述式を含む)

授業参加の積極性を問うミニレポートも加味。

【教科書】

なるほど世界地図帳 最新版 帝国書院

【参考文献】

授業中に紹介

【備考】

<02~05生>

J生は対象外

科 目 名			
地誌			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	秋学期	2	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

地誌とは地理学における世界の諸地域の説明ですが、この授業では中学社会・高校地理の授業であつかう世界地理の内容について、講義します。殆どの学生が高校で地理を履修していません。しかし、高校地理レベルの知識が無いと、中学・高校の教員採用試験には絶対に合格できません。そのため、高校の授業内容に戻って、細かい地名から学習します。そのために地名など、大量の暗記事項があり、負担の重い科目です。注意して履修してください。2単位のスキマをうめるためには履修しないでください。

【講義計画】

中学・高校の授業で扱う世界各国の地理の内容について、問題集を解くかたちで授業をします。予備校形式の授業です。

【成績評価の方法】

定期期間内試験(期末試験)における客観テストの1回だけの得点により、成績をつけます。60点が合格点です。参考までに、前年度の平均点は38点。合格者は30%、70%が不合格でした。教職に関連する科目であるために、安易に単位を出すわけにはいきません。事情を理解してください。出席は一切、成績に考慮しません。

【教科書】

地理ノート編集部『各国別地理ノート』山川出版社

【参考文献】

中学・高校で使用した「地図帳」(出版社はどこでもよい)が家に残っていれば、授業に持って来てください。

科 目 名			
地方財政論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	藤 田 香

【講義概要・学習目標】

「地方の時代」、「地方分権」、「三位一体の改革」、「平成の大合併」。国と地方の財政は相互に密接な関係を持ち、今日ますます多様化、複雑化している。地方財政とは3300(現在は減少傾向)にも及ぶ都道府県と市町村の財政を合わせたものの総称であり、「国家財政」と合わせて政府の財政活動となる。また、社会経済がそうであるように、財政制度や財政政策も国際化あるいはグローバル化との対応の中で位置づける必要がある。本講義では、地方財政の仕組みや実態について図表を交えながら、地方財政が持つ現代的な意味問題を含めて包括的に取り上げる。

【講義計画】

- 1 現代社会と地方財政
- 2 世界に見る地方自治と地方財政
- 3 日本の地方自治と地方財政
- 4 地方経費の構造と機能の変化
- 5 地方自治体の予算と経費
- 6 地方税と課税自主権
- 7 国・地方の財政関係(国庫補助・負担金制度)
- 8 国・地方の財政関係(地方債)
- 9 地方公共サービスとその経営体
- 10 大都市財政と都市再生
- 11 過疎化と農村財政
- 12 地方財政と公共事業改革論
- 13 環境政策と地方財政
- 14 高齢化社会と地方財政
- 15 日本型「地方分権」の特質

【成績評価の方法】

期末試験によって評価する。必要に応じて確認テストを行う。

【教科書】

宮本憲一・小林昭・遠藤宏一編『セミナー現代地方財政-「地域共同社会」再生の政治経済学』、勁草書房、2000年、3000円。

【参考文献】

- 佐藤進・林健久編『地方財政読本』、東洋経済新報社、1997年、2330円。
 和田八束・野呂昭朗編『現代の地方財政(第3版)』、2004年、2800円。

科 目 名			
中国経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	巖 善 平

【講義概要・学習目標】

1978年の改革開放以来、急成長を遂げる中国は、東アジア経済はもとより、世界経済のなかでも重要な役割を担う存在となっている。好むと好まざるとにかかわらず、いまや中国を抜きにして世界経済のゆくえを語ることはできない。ところが、12億人を超える人口を擁し、発展段階の異なる多数の地域からなる中国を丸ごと理解することはとても難しい。中国の全体イメージができあがって初めて、その一部も理解できるようになるからである。本書は、「現代のなかの歴史」、「多様性のなかの発展」、「世界のなかの中国」をキーワードとして、中国経済の実情を複眼的視点から分析する。中国を丸ごと理解することは容易ではないが、多くの情報があふれる今日こそ、複眼で中国を見る重要性がますます高まっている。(教科書の扉頁より)

【講義計画】

- 序章 中国経済への招待
- 第1部 現代のなかの歴史
- 第1章 20世紀の中国経済—発展と変化の道程
 - 第2章 中国社会主義再考
 - 第3章 経済発展と市場移行—改革開放の20年
- 第2部 多様性のなかの発展
- 第4章 変貌する農民国家—農業・農村・農民問題
 - 第5章 企業体制の転換、進化および収斂
 - 第6章 工業化の空間的側面
 - 第7章 財政、金融からみた中央と地方
 - 第8章 失業、貧困と所得格差
 - 第9章 人口と社会保障—セーフティネットの再構築
- 第3部 世界のなかの中国
- 第10章 貿易大国の実像—貿易と直接投資
 - 第11章 グローバル化のなかの中国企業
 - 第12章 香港・台湾と中国—チャンスか?トラップか?
 - 第13章 北東アジアと中国—ボーダブルからボーダレスへ
- 終章 中国経済の行方

【成績評価の方法】

中間レポート、期末試験の成績で評価する。

【教科書】

加藤弘之・上原一慶編『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年

【参考文献】

随時配布

た
行

科 目 名			
中国語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。

【講義計画】

<前期> (1) 現代中国語概説
 (2) 漢語ローマ字
 (3) 発音と四聲
 (4) 教科書第1課から第10課までの講読
 <後期>教科書第11課から第20課までの講読

【成績評価の方法】

出席率と前・後期の試験による。

【教科書】

輿水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店

科 目 名			
中国語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	徐 国 玉
03	通期	2	

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」—この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン(ローマ字による発音表記)を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でレポートされている。1年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。

また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【講義計画】

<前期>導入
 発音段階①ピンイン(ローマ字による発音表記)
 ②四声(中国語のイントネーション)
 ③総合練習
 本文の勉強第1課～第6課2コマ一課のペースで行う
 (文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習)
 <後期>本文第7課～第10課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価

【教科書】

「1年生のころ」(ビデオで学ぶ中国語 改定版 CD付き 朝日出版社)

【参考文献】

「デイリーコンサスス中日辞典」
 杉本達夫などの編集(三省堂)

科 目 名			
中国語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語の誤報と発音の基礎訓練、特に漢語ローマ字の習熟及び基本文型・語彙の構造などの理解から日常会話を習得し、下記の教科書を用いながら講読する。なお定期的に発音の矯正を個別に行うので、受講生はこれを必ず受けること。また週二回の授業は同じ担当者が文法と講読を同時に行うため、クラスを間違えないように特に注意してください。

【講義計画】

<前期> (1) 現代中国語概説
 (2) 漢語ローマ字
 (3) 発音と四聲
 (4) 教科書第1課から第10課までの講読
 <後期> 教科書第11課から第20課までの講読

【成績評価の方法】

出席率と前・後期の試験による。

【教科書】

輿水優（監修）『基礎中国語会話』改訂版、東方書店

科 目 名			
中国語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	オウ 汪
03	通期	2	ギョウ 暁 キョウ 京

【講義概要・学習目標】

「発音よければ、半ばよし」——この言い方は同じ漢字を使う日本人にとってなおさらの真実だ。初めての中国語、何と言っても発音のマスターが一番重要だ。ピンイン（ローマ字による発音表記）を頼りに、繰り返し声を出して練習し、正確、きれいな発音を覚えること。その次、最も基本的な文法を中心に、易しい日常会話と平易な中国語の文章を習得。使うテキストはCD付きで、ビデオも対応している。そして、テキストの本文からビデオまで習う言葉と文型がいろんな形でリピートされている。一年間の勉強を通して、「耳」と「口」が中国語に慣れるよう努力すること。また、中国語の勉強と共に、中国の文化、社会、風俗、習慣などについて紹介する。

【講義計画】

<前期> 導入
 発音段階 ①ピンイン（ローマ字による発音表記）
 ②四声（中国語のイントネーション）
 ③総合練習
 本文の勉強 第1課～第6課 2コマ一課のペースで行う
 （文法と言葉の使い方の説明、本文の説明、並びに朗読、翻訳、練習）
 <後期> 本文 第7課～第16課 前期と同じ

【成績評価の方法】

定期試験、平常点、出席などによる総合評価。

【教科書】

「一年生のころ」（ビデオで学ぶ中国語 改訂版）
 （CD付き） （朝日出版社）

【参考文献】

「デイリーコンサイス中日辞典」
 杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘 [共編]
 （三省堂 1998）

た
行

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語Iで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

<前期>復習編(一)～(五)及び応用編第1課～第5課
<後期>応用編第6課～第14課

【成績評価の方法】

平常点と前・後期の試験による。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	サ 左 コウ 虹

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造を基に、さらに優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習う事を目的とする。なお、言葉の背景には、文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に、中国人のものの見方、考え方、風俗、習慣等に触れ、異文化理解をも視野に入れる。

【講義計画】

定型表現からなる会話のやり取りが即座に反応できるよう繰り返し練習する。また、自分の意思を述べたり感情を表出したりして、言いたいことを相手に的確に伝えるよう会話を組み立てながら発話することを重点的に練習する。

【成績評価の方法】

出席状況及び授業中の提出物を総合的に判断する。

【教科書】

「新版・トーク・トピックス」
沈国威ほか 著 白帝社

【参考文献】

授業中指定する予定

科 目 名			
中国語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2	徐 ^{ジョ} 国 ^{コク} 玉 ^{ギョク}

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

【前期】 第1課～第7課

【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【教科書】

『中国語実力アップ教本』(徐国玉/山田忠司 著 白帝社出版)

【参考文献】

『中日辞典』 (小学館)

科 目 名			
中国語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

中国語Iで修得した発音と語法をふまえて、語彙を増やし、読解力のスピードアップを目指す。受講生は必ず予習・復習を励行し、出席を怠らないこと。また毎課の後に附している練習問題は宿題として必ず提出すること。出席状況及び宿題の提出をもって平常点とする。

【講義計画】

<前期>復習編(一)～(五)及び応用編第1課～第5課

<後期>応用編第6課～第14課

【成績評価の方法】

平常点と前・後期の試験による。

【教科書】

丁秀山、坂井田ひとみ 編著 『日常的対話』 金星堂

【参考文献】

香坂順一 編『簡約 現代中国語辞典』 光生館

科 目 名			
中国語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	サ 左 コウ 虹

【講義概要・学習目標】

中国語を1年間勉強した学生を対象に、既に習得した現代中国語の基本構造を基に、さらに優しい文体に親しみながら、文法や語彙に関する知識をより広く、深く習う事を目的とする。なお、言葉の背景には、文化、思想があり、中国語を学ぶと同時に、中国人のものの見方、考え方、風俗、習慣等に触れ、異文化理解をも視野に入れる。

【講義計画】

定型表現からなる会話のやり取りが即座に反応できるよう繰り返し練習する。また、自分の意思を述べたり感情を表出したりして、言いたいことを相手に的確に伝えるよう会話を組み立てながら発話することを重点的に練習する。

【成績評価の方法】

出席状況及び授業中の提出物を総合的に判断する。

【教科書】

「新版・トーク・トピックス」
沈国威ほか 著 白帝社

【参考文献】

授業中指定する予定

科 目 名			
中国語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	2	ジョ 徐 コク 国 キョウ 玉

【講義概要・学習目標】

この授業では中国語の聞く力、話す力、理解力を一層高めることを目標とする。1年次で学んだピンイン、語彙、文法事項を復習しながら、より上の段階の語彙、文法を系統的に学習する。徐々にちょっと難しい会話ができるように進めていく。

【講義計画】

【前期】 第1課～第7課

【後期】 第8課～第15課

【成績評価の方法】

出席状況、平素の小テストの評点と前期、後期のテストの評点で総合的に評価します。

【教科書】

『中国語実力アップ教本』（徐国玉／山田忠司 著 白帝社出版）

【参考文献】

『中日辞典』（小学館）

科 目 名			
中小企業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

現状における中小企業に関する様々な問題を追いながら、特に製造業を中心に引き上げ講義を行います。
 これまで中小企業論が注目してきた「問題性」の認識と現在の課題を広く把握することを学習の目標とします。

【講義計画】

- ・中小企業への視座
- ・『中小企業白書』を読む
- ・日本の下請システム
- ・日本の下請システムの変化と中小企業
- ・産業集積と中小企業
- ・中小企業政策
- ・中小企業の課題

基本的に教科書に沿って、講義を進めます。
 教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。

【成績評価の方法】

毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。
 当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト（40点）と学期末試験（60点）で評価します。

【教科書】

植田浩史『現代日本の中小企業』岩波書店、2004年。

【参考文献】

- 上田達三監修 田中充・佐竹隆幸編著『中小企業論の新展開』八千代出版、2000年。
 植田浩史編『産業集積と中小企業』創風社、2000年。
 植田浩史編『「縮小」時代の産業集積』創風社、2004年。

科 目 名			
朝鮮語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	ユン ヨン ファ
02	通期	2	尹 英 和

【講義概要・学習目標】

この講義では、大韓民国で使われる朝鮮語(以下韓国語)を中心に授業を進めます。
 文法において酷似の日本語と韓国語も、発音においてはその違いが目立ちます。韓国語の発音を日本語の発音と比較しながら、繰り返し練習します。それとともに韓国語の文字(ハングル)を学習します。
 また、日常生活でよく出会う挨拶表現など、実際の会話で意思疎通に役立つ表現を、活動とともに勉強していきます。

【講義計画】

前期：第1課～第11課
 文字と発音及び簡単な挨拶を勉強します。
 後期：第12課～第18課
 数字を自由に表現します。
 簡単な会話の表現を勉強します。

【成績評価の方法】

授業への参加及び2回のテストにより評価します。
 一回は口頭テストであり、もう一回は筆記テストです。
 口頭テスト：40%
 筆記テスト：40%
 出席：20%
 (90%以上出席できない場合、登録ご遠慮ください)

【教科書】

長谷川由起子『コミュニケーション韓国語(会話編1)』(白帝社)

た
行

科 目 名			
朝鮮語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期 通期	2 2	徳 成 外志子

【講義概要・学習目標】

朝鮮半島の文字「ハングル」は、わずか24の音素文字(基本母音字10、基本子音字14)の組み合わせによってできていて、とても合理的で平易です。また、「てにをは」があることや、語順などの文法事項も日本語に非常によく似ていて、日本人にとって最も学びやすい外国語です。

この授業では、朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に、朝鮮語の文字・発音・基礎的文法事項を初歩から学習し、一年間で基本的文法事項をマスターします。辞書を引きながら朝鮮語で書かれた文章を読解できるようにし、簡単な作文や会話も行えるようにします。また折に触れて、朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにします。

授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、北朝鮮で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきます。

【講義計画】

- 前期：1. 授業の進め方などガイダンス、朝鮮語の特徴
 2. 文字・発音・辞書の引き方・簡単なあいさつなど
 (1課～4課)
 3. テキストに沿って5課～8課
 ハムニダ体(上称形)名詞文、名詞文の否定と尊敬、
 ハムニダ体用言文、用言文の否定、
 数詞・疑問詞の使い方など
- 後期：1. テキストに沿って9課～12課
 尊敬形、連用形・ヘヨ体(略待上称形)、
 ヘヨ体の尊敬形、過去形など
 2. 連体形、進行形、未来・意志形など(13課・14課の要点)
 3. リウル語幹、変則用言の補足
 4. 状況に応じて、簡単な読み物の副教材や、歌、ビデオ等

【成績評価の方法】

前期・後期末テスト(60%)、平常の出席、小テスト、宿題、発音・聞き取りのチェックなど(40%)を総合的に評価します。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切です。

【教科書】

生越直樹・曹喜澈『ことばの架け橋』(白帝社、2000)

【参考文献】

油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館。その他の辞書等、授業で適宜紹介します。

科 目 名			
朝鮮語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	青 野 正 明

【講義概要・学習目標】

「朝鮮語 I」で学んだ基礎力をもとにして、韓国における日常会話の文章表現を学びながら会話能力をさらに高めていく。多くの人が話せるようになりたいと思いつつながら、なかなか話せるまでには至らない。そこで、この授業では基本会話をマスターすることにより、会話力の基礎的な骨組みを作ることを目指す。この骨組みさえできていれば、それをもとに場面に合わせて応用が可能である。また、個人の努力次第でどんどんとレベルアップもできるはずである。

【講義計画】

春学期：ステップ9～ステップ29 秋学期：ステップ30～ステップ50

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

【教科書】

兼若逸之『うまくなる！韓国語ステップ50』明石書店、2001年

科 目 名			
朝鮮語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	青 野 正 明

【講義概要・学習目標】

「朝鮮語Ⅱ」を始める時期は、ある程度の基礎的な文法がわかっているため、高度な文法や文章表現の理解も容易であろう。「朝鮮語Ⅰ」で学んだ基礎力をもとに、さらに文法をしっかりと学びながら、徐々に難しい文章の翻訳ができるように進めていく。1年間を終えた段階では、辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文を翻訳することができるだろう。

【講義計画】

春学期：第11～17課 秋学期：第18～25課

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

【教科書】

金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級Ⅱ』スリーエーネットワーク、2001年

科 目 名			
地理学概論 (旧自然地理学)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4	野 尻 亘

【講義概要・学習目標】

地理学は具体的な「地域」、抽象的な「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象とし、固有の理論や法則を持っている。この授業では人文地理学や自然地理学の基礎について、具体的に学習する。しかし、近年は学習指導要領の改訂により、中学や高校で地理を体系的に学習する機会は殆どなくなった。殆どの高校では地理を履修できない。しかし、高校レベルの地理の学力が無いと、中学・高校の教員採用試験は絶対に合格できません。そのため、高校の授業内容にまで立ち戻って学習を開始する。したがって、暗記事項も多く、負担も重いので注意して履修してください。

【講義計画】

1. プレートテクトニクスと地形
2. 気候と植生、土壌
3. 世界の農林水産業
4. 世界の鉱工業
5. 村落と都市
6. 世界の人口
7. 国土と民族
8. 国家の結びつき 貿易と国際協力

【成績評価の方法】

問題集を解答していく授業。予備校の形式の授業です。定期期間内試験（期末テスト）で、客観テストの得点のみで成績をつけます。出席状況は成績には一切考慮しません。しかし出席していないと解答できないレベルの問題です。参考までに、前年度の平均点は33点。合格基準点は60点ですから、70%以上の方が不合格になりました。教職に関連する科目なので、安易に単位を出せない事情を理解して、注意して履修してください。

【教科書】

田村誠『地理Bノート』旺文社

【参考文献】

中学・高校時に使用した「地図帳」が残っていれば、授業に持って来ていただければ幸いです。

た
行

科 目 名			
通訳法 (旧英・日語通訳法)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	遠 山 淳

【講義概要・学習目標】

正直に言えば、通訳者になるのであれば、TOEFLに換算して600点ぐらいはないと、他人のための通訳などとても望めない。通訳をするということは、他人の言語生活を、文化を超えて共有するというのである。

適正の問題もある。日本語力、英語力、専門知識、教養、異文化・国際行動の常識、通曉性の高い発音、これらすべてが学習目標となるし、加えて通訳技法の習得である。このコースは英語学習のコースではなく、通訳法の入門コースである。

技術的に少人数クラスでないとクラス運営ができない。最初の授業において実力適正試験を行う。LL教室を使用。

【講義計画】

1. はじめに：「通訳法」と「通訳者」
2. アド・ホック通訳（日英）と逐次通訳（英日）
3. 逐次通訳法とメモ取り訓練（英日・日英）
4. 簡単な同時通訳法訓練（英日）
5. 逐次通訳法を中心とする訓練
6. 模擬訓練と実力試験、などを随時行う。

【成績評価の方法】

期末に行う実力試験（performance）で評価する。

【教科書】

使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。学生は、メモ取り用の雑記帳と空テープを、毎回用意すること。

【参考文献】

授業中に紹介する。

科 目 名			
ディスカッション法 (旧英語ディスカッション)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	ラウル セルバンテス Raoul Cervantes

【講義概要・学習目標】

This class will focus on serious discussions of English language movies. Each week, will view a movie, and discuss several scenes from the movie. Topics will include character, personality, psychology, and filmmaking. Only English will be spoken, no Japanese or translation. Students must attend classes and complete any homework. To pass this class, student must be able to use spoken English. This class is not for beginners.

【講義計画】

During the first half of the course, we will discuss the movie "American Beauty". This film focuses on sociological and psychological topics including family problems, mental stress, and death. During the second half of the course, we will discuss the film, "Groundhog Day". This film will focus our discussion on the pursuit of happiness.

【成績評価の方法】

Student must attend this class to receive credit. Also, students must speak only in English. Grading will be based on class participation.

【教科書】

No Text

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
ディベート法 (旧英語パブリック・スピーキング)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	萬 戸 克 憲

【講義概要・学習目標】

与えられた課題について、①論理的に思考し、②相手の論拠の矛盾を見極め③その場で反駁するなど、英語でできるようになることが目標である。

準備や発表などで、毎時間積極的な取り組みが必要である。かなりきつい授業であるので、覚悟して受講してほしい。また、無断で欠席するとチームのメンバーに迷惑をかけるので、絶対に休まないように。

この授業を通じて、英語で自由に自分の意見を述べたり、相手に反駁できるようになることを期待している。

なお、最初に授業でディベートについてのプリントを配布する。次の時間に下記の課題について提出する。(日本語でB5版、3～5枚)

- ①ディベートとディスカッションの違い
- ②ディベートを通じて、どのような力が身につけられるか
- ③この授業に対する私の期待

【講義計画】

1. 前、後期を通して、毎時間数名に英語でのスピーチを課す
2. 前期には、Smoking, Sexual discrimination, Death Penaltyなどの問題を取り上げ、ディベートの基本から学習し、さまざまな問題について論理的に考えるとどのようなことかということから始める。
実際のディベートでは、Constructive Speech, Cross-Examinationの段階まで進める。
3. 後期には、Gun Control, Euthanasia, Same-Sex Marriageなどを題材として取り上げる。ディベートとしては、Rebuttal and Summaryまで、その場でできるよう進める。

【成績評価の方法】

ディベートへの参加、各自4～5回の英語でのスピーチ、および期末考査
3回以上欠席すると、単位は認められない。

【教科書】

T. Nishimoto *Both Sides Now* Seibido

【参考文献】

Y. Matsumura *Enjoy Debating* Eichosha

科 目 名			
データベース実習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	初 瀬 慎 一

【講義概要・学習目標】

本講座では、Microsoft Accessを用いてデータベースを作成し、リレーショナルデータベース全般の基礎的概念、構築・運用の実際について学ぶ。次いでサーバーに構築されたRDBMS環境を利用して、SQLを用いてのデータ検索を行う。

さらにWEBサーバーと連携して、簡易データベース機能を持つホームページを作成する。

【講義計画】

1. Microsoft Accessの基本操作
2. データ型の決定、入力・出力・検索フォーマットの決定
3. データ入力
Excelなどからのインポートと、トランザクション処理
4. データベース検索
5. データファイルの追加とリレーショナル処理
6. PostgreSQLの基本操作
7. SQL言語によるデータ検索
8. WWWサーバーとCGIによる簡易データベースの作成

【成績評価の方法】

提出課題の評価を中心に、試験との総合評価を行う。出席は授業日数の3分の2以上であること。

【教科書】

開講時に指示する。

た
行

科 目 名			
哲学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	木 下 昌 巳

【講義概要・学習目標】

本学での倫理学の授業の中で、学生諸君に「哲学は必要か？」という問いをしたところ、少なからぬ人が「そもそも哲学というもの何の研究する学問なのかかわからないので、答えようがない」という返答をした。哲学の対象分野が必ずしも明確ではないことは事実であり、そもそも「哲学とは何か？」という自体がすでに哲学的問題であると言うことができる。だか、対象分野が明確ではないとしても、さまざまな問題に対する哲学的なアプローチというもの存在すると考える。本講義では、古代ギリシャから現代に至るまでの幾人かの哲学者の思想を紹介しつつ、それと平行して現代的な哲学的トピックを取り上げ、その上で現代に生きる我々とそれらの哲学的問題との関わりを考察することを目指す。

【講義計画】

前半は、西洋の哲学者の思想を順に講義する。
後半は、前半の授業を踏まえて、現代の哲学的トピックを紹介する。

【成績評価の方法】

学期末テストによる

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
ドイツ語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	田 中 秀 穂
02	通期	2	

【講義概要・学習目標】

初めてドイツ語を学ぶ学生を対象として、初級文法の講義と演習を行なう。アルファベットや発音から始めて、基本的な文法事項を習得していく。

ドイツ語には、主語によって動詞の形が変わる「人称変化」や、名詞や冠詞などが文中での役割によって変化する「格変化」、独特の語の並べ方など、さまざまな規則があり、覚えなくてはならないことも少なくはない。しかし、積極的に授業に取り組み反復練習を心がけ、ドイツ語の表現のしかたを確実に身につけてもらいたい。

【講義計画】

[前期]

0. アルファベット、発音
1. 動詞の現在人称変化
2. 名詞と冠詞の格変化
3. 不規則動詞、命令形
4. 名詞の複数形
5. 定冠詞類と不定冠詞類、人称代名詞
6. 前置詞、疑問代名詞
7. 未来形、話法の助動詞

[後期]

8. 動詞の3要形、過去形、完了形
9. 分離動詞、非分離動詞、非人称動詞
10. 形容詞の格変化、形容詞の名詞化
11. 再帰動詞、比較
12. zu不定句、分詞
13. 関係代名詞、指示代名詞
14. 受動
15. 接続法

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行なう。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し総合的に決定する。詳細は、Ia（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。

【教科書】

著者：小塩節、小鏡千代
書名：CD付き OKドイツ語文法読本 [四訂版]
発行所：三修社

【参考文献】

独和辞典は、初回にいくつか紹介するので、随意に選んで1冊購入すること。

科 目 名			
ドイツ語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	高 田 里 恵 子

【講義概要・学習目標】

このクラスでは、Iaで習った文法事項を応用しながら、いろいろなことに挑戦してみたい。

ドイツ語の発音は英語に比べてずっと簡単なのだが、にもかかわらず、中級クラスになっても、大きな声で堂々と話すことが不得手な学生が多いようである。それで、ここでは、声を出してドイツ語を読んでみる、発音してみるという練習に特に力を入れる。簡単な会話ができ、すこし難しい長文が読めるようになることが目標である。

【講義計画】

1. 知らない単語でも、とにかく発音してみよう
2. 動詞をたくさん覚えよう
3. 簡単な文章を作ってみよう
4. ビデオのドイツ語を聞き取ってみよう
5. すこし複雑な説明文を読んでみよう

【成績評価の方法】

前期と後期の最後に試験を行なう。成績（可否）はIaの担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。

【教科書】

教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。また、Iaで使用する文法の教科書と独和辞典を毎回持参すること。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
ドイツ語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	村 田 佳 隆

【講義概要・学習目標】

ドイツ語学習の土台をつくるのがこの授業の目標である。発音の練習をまずタップリとこなし、最低限の文法知識を学びながら、いろいろな文章にふれることによって、日常のドイツ語で用いられる基本的な表現や語彙を身につける。毎回の出席と完全な準備、そしてなによりも授業中の緊張が要求される。

【講義計画】

1. 発音
2. 動詞の現在人称変化
3. 冠詞
4. 前置詞
5. 形容詞
6. 分離動詞
7. 助動詞
8. 再帰動詞
9. 過去・完了
10. zu不定詞
11. 関係代名詞
12. 受動

【成績評価の方法】

前期と後期の終わりに試験を行う。また平常点も考慮する。全体の成績評価は、aを担当する教師とbを担当する教師が相談し、総合的に決定する。詳細はI a（初級文法）のクラスで毎年配布している「初級ドイツ語を学ぶ学生のために」というプリントを参照すること。

【教科書】

西山力也 『声に出して学ぼう、ドイツ語』 第三書房

た
行

科 目 名			
ドイツ語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	高 田 里 恵 子

【講義概要・学習目標】

「話せる語学」にするためには、「書く」練習が欠かせない。この授業は、ごく簡単なドイツ語作文をし、その文を繰り返して口に出して読んでみるという練習をしながら、会話力を伸ばすことを目標とする。

まず行なってもらいたいのは、恥ずかしがらずに大きな声でドイツ語を話すということである。

反復練習をする持続力、決められたことを決められた時間内でこなす能力は、どんな職業、どんな分野にも求められるものである。この能力を、ドイツ語学習をとおして身につけてもらいたい。

【講義計画】

1. 初級文法の復習
2. seinとwerdenを使って
3. 日常生活のなかの助動詞
4. 接続法を使いこなす

そのほか、数字を使った表現（大きな数・年号・年齢・時刻・序数など）を学んでいく。

【成績評価の方法】

前期と後期の最後に試験を行なう。成績（合否）はIIbの担当の教員と相談のうえ決定される。また平常点も重視するが、それはたんに出席することではなく、授業に積極的に参加することを意味している。授業中の態度や勉強意欲を正當に評価できるように、授業のやり方や内容、テストの問題を工夫するつもりである。

【教科書】

教科書は使用しない。プリントを配布するので失わないこと。また、初級クラスで使用した文法の教科書（何でもよい）と独和辞書を毎回持参すること。

【参考文献】

授業中に指示する。

科 目 名			
ドイツ語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	2	坂 昌 樹

【講義概要・学習目標】

できるだけドイツ語を楽しんでみたいと思います。テキストは指定せず、毎回教員が用意します。ですから原則として、この授業に予習はいりません。ポップスなどを聞いたり、インターネットなどを利用してドイツ語を学ぶことができれば良いと考えています。それでも学習の重点は、ドイツ語の文章を読み解くことにあります。その際、ドイツ語Iで習ったことの復習だけでなく、ドイツの人々の感情表現を少しでも理解できるようところがけたいと思います。わからないことは、なんでも質問してください。わからないことがあったり、あるいはドイツ語Iで習ったことを忘れてしまっても、そのことを低く評価したりはしません。低く評価するのは、それらを知らないままにしておく態度です。積極的な授業参加を望みます。

【講義計画】

ドイツ語のポップス(フォークソング、ロックなど)を聞きます。Die Prinzen, Jule Neigel, Marius Muller-Westernhagen, Herbert Gronemeyer, Nenaなどの歌手を予定しています。

【成績評価の方法】

毎回の授業で出席をとり、前期と後期の終わりに試験を行います。また、授業への積極的な参加も評価されます。ただし、全体の成績評価は、IIaを担当する教師と相談して総合的に決定します。

【教科書】

なし。毎回のテキストは教員が用意します。

【参考文献】

独和辞典とドイツ語Ia(文法)の教科書を毎回持参してください。

連絡先：(研究室) アンデレ館 7階725室
(tel) 0725-54-3131 (内線) 3725
(Email) ban@andrew.ac.jp

面談：在室中は、随時可能です。

※ドイツ語の講義すべてとの関連で、夏休みに4週間、ドイツの大学(フライブルク大学)でドイツ語を勉強する語学研修を国際センターが募集しています。とても楽しい研修です。みなさんも一度、ドイツへ行ってみませんか？

科 目 名

ドイツ文化論
(旧ヨーロッパ文化研究—ドイツ文化)

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	高 田 里 恵 子

【講義概要・学習目標】

この講義では、1871年のドイツ帝国成立から、1945年のナチス・ドイツの崩壊までの歴史を扱う。その際、導きの手として、学校制度・教育思想の変遷を取りあげたい。今回は、この時期に書かれたいくつかの学校小説と戦争小説を考察しながら、ファシズム成立のメカニズムを探っていく。何本かのビデオ作品を見ていく予定である。

【講義計画】

1. 思春期はどのように生まれたか
2. 上級学校と全体主義
3. 寄宿舎のポリティクス
4. 対等でない二人の少年の関係
5. 高等教育と軍隊制度

【成績評価の方法】

最後に期末試験を行なう。また状況によっては、理解度を見るために、レポートか小テストを課すこともありうる。試験やレポートでは、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。

【教科書】

教科書は使用しない。

【参考文献】

1. 野田宣雄『ドイツ教養市民層の歴史』（講談社学術文庫）
2. ジョージ・モッセ『英霊 創られた世界大戦の記憶』（柏書房）
3. ウォルター・ラカー『ドイツ青年運動 ワンダー・フォーゲルからナチズムへ』（人文書院）
4. イヴ・セジウィック『男同士の絆 イギリス文学とホモソーシャルな欲望』（名古屋大学出版会）

科 目 名

統計学総論

クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	野 田 知 彦

【講義概要・学習目標】

社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。

【講義計画】

講義のはじめに指示する

【成績評価の方法】

2回のテスト

【教科書】

『統計学入門』第2版』森棟公夫著 新世社

【参考文献】

授業中に指示する

科 目 名			
統語論 (旧英語統語論Ⅰ－統語論入門) (旧英語統語論Ⅱ－英語の統語現象)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	清 水 真 一

【講義概要・学習目標】

本講は、これまで受講生諸君の学習してきたはずのいくつかの英語の構文を整理し、さまざまな角度からそれらを観察することから話を始める。その中には、疑問文、命令文、受身文と能動文、関係詞節、動詞の型（補文構造）などが含まれるであろう。こうした基本的な構造をどのようにして作り出すかを思案し、その中で移動、照応などの現象を捉える具体的な道具立てを考えてみたい。そして、それらの規則性を包括的に規定しているより一般性の高い制約の存在を仮定し、統語論における議論の仕方の基本を学ぶことを本講の目的としたい。データは英語を中心とする。

【講義計画】

1. 単文
2. 複文
3. “循環”規則
4. 補文構造
5. 移動規則
6. いくつかの制約
7. 代名詞化

【成績評価の方法】

原則として、試験、小テスト、出席に基づき総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に随時、指示する。

科 目 名			
倒産処理法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

倒産処理法とは、破産法、民事再生法、会社更生法、商法上の会社整理および特別清算の総称です。倒産法とも呼ばれています。倒産は、まさに法律問題の《つるぼ》であり、種々の法領域に関わる問題の処理が求められます。言い換えれば、実体法と手続法が激しく交錯する場が倒産処理法です。本講義では、破産法、民事再生法、会社更生法を中心に、倒産処理法の基礎を概説します。倒産処理法は、「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法」と続く民事法の流れの、いわば最後に位置するものということができます。本講義を受講する学生諸君には、少なくとも民法・商法（会社法）、並びに、春学期開講の民事訴訟法、及び秋学期開講の民事執行法を併せて受講することが望まれます。

【講義計画】

- (1) ガイダンス(講義の進め方,成績評価,その他)～個別執行(民事執行)と包括執行(倒産処理)
- (2) 倒産法制と私的整理
- (3) 倒産処理手続の開始
- (4) 倒産処理手続における債権の処遇
- (5) 倒産処理と担保権
- (6) 倒産処理手続と倒産債務者をめぐる法律関係
- (7) 否認権
- (8) 倒産処理手続の終了
- (9) 消費者の倒産手続
- (10) 国際倒産

以上の項目につき、破産法・民事再生法・会社更生法を中心に講述します。

【成績評価の方法】

- (1) 平素の勉学状況（講義への出席・受講態度など）と、
- (2) 講義の際に適宜実施する試験の成績とを、総合的に評価して決定します。特に平素の勉学状況を重視します。
- (3) 講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【教科書】

講義では、レジメを配布する予定です。講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。破産法が全面改正されましたので、平成17年版以降の六法でなければ役に立ちません。「六法」の種類は問いませんが、「民事再生規則」や「会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意して下さい。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
道徳教育の研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	徳 永 正 直

【講義概要・学習目標】

子どもたちの「荒れ」や社会的規範意識の顕著な低下に対処するために道徳教育の一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまり良くない。何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、コールバーグらの道徳性発達理論に依拠したモラルジレンマ授業の意義と問題点を、教育的タクト論の視点から検討する。あわせて価値多様化時代における道徳教育の課題を、学習指導要領との関連で考察する。

とかく問題の多い道徳教育に対して、各自の立場を構築することを目標とした。

【講義計画】

1. 「教育」の重要性と危険性
2. 「道徳」授業批判
3. 子どもの「荒れ」を考える。
4. アリス・ミラーの反教育学の立場から
5. 価値多様化時代における道徳教育の困難さ
6. 倫理学における自由主義の原理と環境倫理学
7. 道徳教育の課題 学習指導要領の解説と「心のノート」について
8. 道徳性発達理論 ピアジェとコールバーグ
9. モラルジレンマ授業について
10. モラルジレンマ授業の展開（ビデオ教材で確認）
11. 教育的タクトとは何か。
12. タクト論の視点から「道徳」授業の可能性をさぐる。
13. 賞罰問題と子どもの人権
14. 道徳教育の歴史を踏まえて今後の課題を確認する。

【成績評価の方法】

定期試験（80％）と講義関連の提出物（20％）で評価するが、履修者数が少数の場合には出席点も考慮したい。

【教科書】

徳永・堤・宮嶋・榎原・林著『道徳教育論—対話による対話への教育』（ナカニシヤ出版、2003年）

【参考文献】

講義中にそのつど指示するが、予め2冊挙げておきたい。
 徳永正直著『教育的タクト論—実践的教育学の鍵概念』（ナカニシヤ出版、2004年）
 徳永・堤・宮嶋著『対話への道徳教育』（ナカニシヤ出版、1997年）

科 目 名			
東洋史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	串 田 久 治

【講義概要・学習目標】

「以史為鑑 察往知来」—歴史から何を学ぶか

今に伝わる多くの歴史書のひとつに、宋の司馬光（しばこう）が著した歴史書『資治通鑑（しちつがん）』がある。これは読んで字のごとく、過去の歴史を来るべき時代の治に資し、人間の鑑（かがみ）とするという歴史観である。ただ、歴史を鑑戒とする考え方は司馬光だけのものではなく、中国では古代から伝統的に受け継がれたものである。今も「史を以て鑑と為し、往を察して来を知る（人間の歴史を鑑とし、過去の過ちを察して未来の行方を知る）」精神は健在である。歴史に教訓が記録されない時、そして歴史に学ぶことができない時、歴史は繰り返される。

以上は拙著『儒教の知恵』の一節です。本講義は中国の歴史書に記録される史料を通して、歴史を記録することの意味を、そして歴史を学ぶことの意味を考えながら今日の日本や世界を考え、二十一世紀の世界を模索するものです。

【講義計画】

第一部 歴史から何を学ぶか

- 1 歴史観—歴史を記録することの意味
- 2 微言大義—『春秋』
- 3 革命思想—『孟子』
- 4 華夷思想

第二部 正史—中国の歴史書

- 1 司馬遷と『史記』
- 2 班固と『漢書』
- 3 災害異変と体制批判
- 4 鑑戒

【成績評価の方法】

出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価する。なお、レポートに関しては毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失う。

【教科書】

講義中に史料を配布する。

【参考文献】

- ・市井三郎著『歴史の進歩とは何か』（岩波新書）
- ・串田久治著『儒教の知恵—矛盾の中に生きる』（中公新書）
- ・串田久治著『中国古代の「諺」と「予言」』（創文社）
- ・串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
- ・KUSHIDA'S WEB SITE <http://www1.odn.ne.jp/kushida>
- ・武田泰淳著『司馬遷—史記の世界』（講談社学術文庫）
- ・加地伸行著『史記—司馬遷の世界』（講談社現代新書）

【備考】

J生対象外

た
行

科 目 名			
東洋史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	原 山 焯

【講義概要・学習目標】

この講義は、中国世界を中心とする東アジア世界、そしてそれ以外のアジア諸地域を主な考察の対象とする。アジアの歴史は、「中華」と自認する漢民族と、その周辺に居住する諸民族（漢民族からは「夷狄」とよばれる）の二大要素の相剋によって展開されてきたという見方ができる。よく知られている北方騎馬遊牧民族、匈奴や突厥、モンゴルなどは特に著名な活動により、中国世界、そしてアジア全体、ひいては世界史的規模で実質が大きく変貌することがあった（モンゴル時代史とはまさにそのような時代である）。このような異質の要素を含みこむアジアの歴史を通観し、再構成してみよう。こうした問題関心は、多民族複合国家として存在する現在の中華人民共和国をはじめ、アジア諸地域のありようを考えてみる場合にも大きなヒントにもなることだろう。

【講義計画】

1. この授業の目的と講義の進め方の説明
2. 以下、講義概要に示した関心から、問題を設定してアジア諸地域の歴史の特質を通観して行く。

【成績評価の方法】

授業への理解度と出席状況を確認するための小テストを毎回おこなって出席状況と理解状況を確認する。これと学期末の定期試験によって総合的に評価する。

【教科書】

随時参考資料を配布する。

【参考文献】

寺田隆信『物語 中国の歴史』中公新書 中央公論社。
松田寿男『アジアの歴史』岩波書店。

科 目 名			
東洋美術史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	林 宏 作

【講義概要・学習目標】

美術の範疇はいたって広く、絵画・彫塑・建築・工芸など、凡そ空間ならびに視覚の美を表現する芸術すべてがその範疇に属するものである。この講義では、東アジア・内陸アジアの多様な自然と生活、社会などを基盤として、どのような芸術が創造されてきたのかを問いたい。それには先史時代・殷・周・戦国・秦・漢・南北朝・隋・唐・宋・元・明・清など、時代を縦割りにして中国美術史の継続性を究め、さらにそれぞれの時代を横割りにしてアジア諸地域の文化との交流という広範な視野からも中国芸術の全貌を眺めてみたい。各時代の特色や代表的な作家について述べながら、中国絵画における線描や皴法の特徴、山水画の起源、書画同源の問題、さらに謝赫の六法論、写実と写意の概念、董其昌の南北画論などの理論についても論じてみたい。

【講義計画】

1. 芸術創造の基盤条件としての中国の自然と生活、社会
2. 先史時代の遺跡と出土した芸術品
3. 殷・周時代の文化と芸術
4. 戦国時代の混乱と芸術の衰退
5. 秦・漢時代、中華文明の形成と遊牧国家の成立が芸術に与えた影響
6. 南北朝時代の文化と芸術
7. 隋・唐・宋時代の文化と芸術、東アジア世界の形成と日本文化への影響
8. 元時代の書画
9. 明時代の文化と書画
10. 清時代、西洋列強の進出と伝統文化の対立

【成績評価の方法】

出席状況、レポート、テスト結果に基づいて総合的に評価する。

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	黒 田 伊 彦

【講義概要・学習目標】

「21世紀は人権の世紀である。」といわれている。人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。

春期は、部落への差別偏見の由来や今も部落差別が続いている要因、部落の起源や部落差別への関いの歩みから、部落へのマイナスイメージをプラスイメージに転換していく事実と視点を明らかにする。

秋期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方及び部落悲惨史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。

教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。

教科書、補充プリント、映像資料を用いる。

春期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。

秋期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。

【講義計画】

（春期）

- (1) 映画「夜明けをめぐして」と「人権教育のための国連10年」で培うものから、同和（解放）教育のあり方を考える。
- (2) 部落差別を支えるケガレ意識の由来と日常性
- (3) 気づいていない部落差別―「いじめ」「ヤブ医者」と解体新書」等
- (4) 部落差別の本質―部落差別が今も続いている理由
- (5) 部落の起源―近世封建社会の形成と「かわた」
- (6) 〃 ―一向一揆と近世封建社会の賤民制
- (7) 部落差別との関い―洪染一揆 VTR「触れ書き一揆」
- (8) 洪染一揆の学習教材化、劇、史跡調査など
- (9) 解放令と身分差別の再編成―部落差別と天皇制
- (10) 映画「破戒」（119分）の前半
- (11) 映画「破戒」の後半、スライド「破戒の風土―藤村と部落問題」

（秋期）

- (12) 西光万吉と全国水平社―VTR「よき日のために」
- (13) 戦争と全国水平社―西光万吉の皇産主義・松本治一郎の「世界の水平運動」批判
- (14) 部落解放の方策と「ねた子を起こすな論」批判
- (15) 戦前の融和教育―伊東茂光と崇仁教育 「同和」の語源と戦時の同和教育
- (16) 戦後の同和（解放）教育の歩みと人権総合学習
- (17) 「いじめ」の原因とそれを克服する同和（解放）教育と教師のあり方
- (18) 部落問題学習の基本的視点―部落悲惨史論の克服を「教科書無償化を勝ちとった部落の子供たち」の教材から考える。VTR「天気になあれ」
- (19) 差別と偏見―VTR「青い目、茶色い目」
- (20) 差別と差別意識の働き―差別事象の共通性
- (21) 教員採用テストの人権・同和教育問題演習

【成績評価の方法】

春期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。秋期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。出席を重んじる。

【教科書】

黒田 伊彦（編著）『部落問題・人権・同和教育教材集』（拓植書房新社）

【参考文献】

黒田 伊彦（著）『部落史紀行』（拓植書房新社）
 中野 陸夫・池田 寛・中尾 健次・森 実（著）『人権教育をひらく 同和教育への招待』（解放出版社）
 藤田 敬一（編）『「部落民」とは何か』（阿吽社）

科 目 名			
同和教育論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を報告していただく予定である。つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際の進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。

【講義計画】

- 1 同和教育とは何か
- 2 同和教育は必要か
- 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状
- 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定）
- 6 同和教育の歴史
- 7 部落問題学習指導の実際
- 8 同和教育の成果と課題

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分たってからの入室は、正当な理由がないかぎり認めない。

【成績評価の方法】

前期のレポートおよび学年末の試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。

【教科書】

中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』解放出版社
 講義中に、絶えず参照するので、必携のこと。

【参考文献】

稲垣有一・寺木伸明・中尾健次『部落史をどう教えるか』解放出版社
 寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』解放出版社

た
行

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	宮 本 進

【講義概要・学習目標】

21世紀初頭の地球は科学技術、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化、地球環境の悪化など急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では紛争中であり日本もそれに無関係ではられない。さらに少子化、核家族化が進むなかで、集団活動や人間関係をつくるのが得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。討論等を取り入れた参加型の授業にしたい。

【講義計画】

1. はじめにー講義計画など
2. 戦前の特別活動
3. 指導要領における特別活動の目標と内容
4. ～6. 学級（ホームルーム）活動の実際とその基本的視点
7. ～8. 生徒会活動の実際とその基本的視点
9. ～10. 学校行事の実際とその基本的視点
11. 必修クラブの廃止と部活動の意義
12. ボランティア活動の意味と意義
13. まとめとテスト

【成績評価の方法】

出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。

【教科書】

授業ノート・資料などをプリントして配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

科 目 名			
特別活動論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2	小 島 孝 敏

【講義概要・学習目標】

第3次の教育改革は、学校週5日制の完全実施や、「生きる力」と「ゆとり」をキーワードに、学びの力を育む・“心の教育”を目指している。現場では、新学習指導要領が、順次に施行され「総合学習」もスタートした。それを生かし支える教育が特別活動である。調和のとれた豊かな人間形成に係わる資質が特別活動の目指すもので、主体的学習の基盤である。全ての学習を統合・発展する特別活動は、「特色ある教育・学校づくり」に欠かせない。「学校行事、児童・生徒会活動、学級活動、クラブ活動」は、自主的な集団活動を通じた生活体験が有効で、重要な役割を果たしている。特に、現代社会における閉ざされがちな子どもたちには、生活経験を開き、社会関係能力の向上や改善が求められている。そのため、まず教師自身が目標の諸能力を獲得する必要があり、指導上の「理論と実践力」を身につけなければなりません。この授業では、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践する場となります。地域の学校行事等に参加し、観察・部分実習することで実際面での理解を深め、併せて大学と地域の連携を深める目的で行います。従って、講義教室が学級活動そのものとなり、全て自主的なボランティアサービスで運営します。具体的には、「各校園の特色ある取組」の学習や、教育実習前のプレ演習を兼ねた「現場訪問や交流」。見学・観察・補助活動等の「実地体験学習」や、班別グループワークでの「ケーススタディ」や「プレゼンテーション」。小学生を迎えて、バリアフリー関連の「大学探検キャンパスガイド」。中学生対象の「進路講和や進路グループ相談活動」等。地域と連携した現地実践活動を多く採り入れます。限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り遅刻や早退のないことが望ましい。

【講義計画】

1. ○授業びらき：オリエンテーション。
 - (1) 学習計画・グループ班分け等。
 - (2) 特別活動の内容と目標。
2. ○学校週5日制と新学習指導要領。
 - (1) 大阪の教育改革の現状と課題。
 - (2) 総合的な学習活動との関連。～〔国際化・環境問題・少子高齢化社会等〕。
 - 教育課程と各領域別のポイント。〔学校行事・クラブ活動・学級活動・生徒（児童）会活動〕。
3. ○各校園の特色ある教育の事例～「あんな学校・こんな学校」VTR等。
 - 総合的学習の演習～特色ある活動の取組と実践例・ゲスト講和等。
 - 実地体験学習・交流活動～見学・観察・補助活動・キャンパスガイド・参観・進路指導講和の発表・進路指導相談等。
4. ○班別プレゼンテーション・評価とまとめ。
5. ○テスト。☆課題レポート。実地体験活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察補助活動を行う。その様子をレポートして提出する。書式は別に指定する。

【成績評価の方法】

出席状況、VS活動や発表、授業内での小レポート、期末レポートの結果等を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。

【教科書】

「学級便り」・資料等の必要なプリント類は、その都度配布する。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

科 目 名			
都市社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	竹 中 英 紀

【講義概要・学習目標】

現代社会において都市は、たえず新しい社会関係・集団や文化を生成する場となっている。よくある「都市化が人間関係を破壊する」といったたぐいのステレオタイプな見方だけでは、現代都市において実際に成立している社会構造や、そこで作動している社会的なメカニズムをとらえることは困難であるといつてよい。

都市社会学は、社会学の一分野として20世紀はじめのアメリカ合衆国において誕生した学問であり、その初期の言説は上のようなステレオタイプのまさに源泉となっているが、近年にいたつて、パラダイムの根本的な問い直しが行なわれていることもまた事実である。

この授業では、以上をふまえ、都市社会学の基礎理論とその批判的継承の流れを学び、さらにその現代日本の都市への応用について考えることをめざしたい。

【講義計画】

I 「都市」という社会現象

1. 世界の都市、日本の都市
2. 歴史のなかの都市

II 都市社会学の基礎理論

3. シカゴ学派と「人間生態学」
4. 生活様式としてのアーバニズム
5. アーバニズムの低位文化理論
6. マルクス派の「新」都市社会学
7. 日本における都市社会学研究

III 現代都市の社会構造

8. 都心とインナーエリア
9. 郊外社会とサバーバニズム
10. ニュータウンの現在
11. グローバル化と現代都市
12. 都市の社会的不平等

IV コミュニティの形成と展開

13. 都会人のパーソナリティ
14. 町内会と都市の地域集団
15. コミュニティ政策と地域社会

※それぞれにつき1～3回程度の講義を予定。また随時、そのときどきのニュースなども取り入れていくので、この計画はあくまでも大枠の目安と考えてもらいたい。

【成績評価の方法】

授業中の課題達成状況（小テスト+レポート）、および学期末の筆記試験（○×、選択式の客観テスト）の成績を総合して評価する。

【教科書】

・高橋勇悦監修、菊池美代志・江上渉編『21世紀の都市社会学』（学文社、2415円）

【参考文献】

- ・C・S・フィッシャー『都市的体験』（未来社）
 - ・松本康編『増殖するネットワーク』（ミネルヴァ書房）
 - ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣）
 - ・園部雅久・和田清美編『都市社会学入門』（文化書房博文社）
- ほか、授業時に指示する。

科 目 名			
都市政策論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	松 本 誠

【講義概要・学習目標】

「都市の爆発と再生～都市づくりの担い手と分権・自治の仕組み」

戦後日本の都市政策は、急激な都市への人口集中と都市構造の過密・高度化によって、国土の均衡を崩し、農山村の破壊をもたらし、都市の暮らしの環境悪化をもたらしてきた。それはまた、ハード面でもソフト面でも災害に弱い都市の構造をつくりだしてきた。

このような都市の“爆発”のなかで、住民・市民と自治体は、どのような政策を展開してきたのか。都市の再生へ、どのような対応をしてきたのか。

今日直面している分権型都市のあり方を踏まえて、21世紀の都市と自治体のあり方を展望しながら、新しい都市政策を考える。同時に、住民・市民が新しい都市づくりに、どのように主体的な役割を果たすべきかについても、実践的な課題を探りたい。

【講義計画】

以下の項目について、講義を中心に状況認識と課題を把握することに努める。

1. 都市公害と住民運動
2. 革新自治体と都市政策
3. 中山間地域の崩壊と“まちおこし”ブームの意味
4. 戦後の市民・住民運動の系譜と展開
5. 住民主体のまちづくりの試行
6. 地方分権と住民自治
7. 阪神・淡路大震災とサステイナブル・コミュニティ
8. 参画・協働と新しい地方自治の模索

【成績評価の方法】

期末にレポートの提出を求めるほか、期中にも適宜アンケートやレポート等によって評価を補足する。

【教科書】

とくに指定しない。

【参考文献】

その都度、指示する。

科 目 名			
図書及び図書館の歴史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	上 田 格

【講義概要・学習目標】

紙が発明される以前にも図書は存在した。また、今日では紙を使わない図書も出現し始めている。図書とは何か。「図書の歴史」では その材質、形態、印刷の変遷をたどる。

次に、古代から現代にいたる図書館の歩みを概観し、歴史上の記録や、人類の生み出した知識、思想、芸術などへのアクセスが、一部特権階級の独占状態から、一般民衆に開放されていく過程を図書館の思想、制度の両面から追っていく。

【講義計画】

1. 記録の誕生と図書の歴史
2. 印刷の歴史
3. 非図書の出現と電子図書の登場
4. 古代の図書館
5. 中世の図書館
6. 近世の図書館
7. 近代図書館の先駆け
8. 近代公共図書館の誕生
9. 日本の近代図書館の歴史 (1)
10. 日本の近代図書館の歴史 (2)

【成績評価の方法】

レポートの提出と、期末試験（筆記）の成績で評価する。出席状況も加味。

【教科書】

毎回 プリントを配布。

【参考文献】

『図書館の話』森 耕一著 至誠堂
『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂
『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会

科 目 名			
図書館経営論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館の経営について学ぶ。図書館の経営とはどういうことであるのか。

それぞれの図書館は、他の図書館と比べると何らかの違いを有する。資料に着目した場合、蔵書量の豊かな図書館があり、あるいは幅広く雑誌・新聞を集めている図書館もある。図書館活動に着目すると、資料貸出し量重点の図書館が多いが、他方にレファレンス、集会など施設を拠点として活動する図書館がある。施設面に着目すると、大きな本館を築き活動する図書館がある一方、分館の設置や移動図書館に力を入れる図書館がある。専門の司書をそろえた図書館がある一方、人材派遣に頼る図書館もある。それらは公共図書館を土台にした例であるが、大学、学校図書館の事情は随分ことなる。また多様である。

このような、図書館ごとの特徴は多分に伝統など過去に起因している。だがそれならば、近未来の各種図書館像の如何は現在の図書館経営者の策・実行にかかるという事になる。各館はサービス計画を立て、実行に移す。その間は経費（人手、資料等）の予算が必要となる。最後に活動の効果測定、計画の評価をし、次の施策に入る。図書館経営論ではこうしたことについて考える。

【講義計画】

- 1 「図書館経営論」ガイダンス（講義計画説明）
- 2 「図書館経営論」の位置付け（図書館法施行規則における）
- 3 「図書館経営」の意味、意義・必要性
- 4 図書館経営の沿革
- 5 図書館経営の原則
- 6 第1次経営と第2次経営
- 7 図書館サービス計画と経営計画
- 8 図書館の経営管理組織
- 9 館種別考察
- 10 図書館経営の諸形態；NPO、PFIなどと委託
- 11 図書館活動及び図書館経営の評価
- 12 パフォーマンス指数
- 13 図書館経営のファーマーリーディング
- 14 まとめ
- 15 テスト

【成績評価の方法】

テスト 70%
課題 20%
出席 10%

【教科書】

高山正也[ほか]『図書館経営論』改訂 樹村房 2004 ￥2000

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

科 目 名			
図書館サービス論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	西 田 文 男

【講義概要・学習目標】

利用者と直接係わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説するとともに、各種サービスの特質を明らかにする。

【講義計画】

1. 図書館サービスの意義と種類（貸出、読書案内、情報サービス、利用者援助、教育・文化活動など）
2. 利用者理解と利用対象別サービス（多文化サービスを含む）
3. 図書館サービスと著作権
4. 図書館サービスとボランティア
5. 図書館サービスの協力（他の図書館、関係機関との連携・協力等）

【成績評価の方法】

定期試験の成績を主に、出席状況も加味して評価する。

【教科書】

塩見 昇「図書館サービス論」教育史料出版会
（新編 図書館学教育資料集成 3）

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
図書館資料論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	谷 本 達 哉

【講義概要・学習目標】

「図書館で利用できる資料といえば、それは“本（図）”・・・？」これは多くの人が抱くごく自然なイメージでありましょう。しかし、図書館は人々が情報を活用するための社会的な枠組みです。ですからここには“本（図書）”以外にも、情報の入れ物としての様々なタイプの資料やメディアが揃っています。この科目では、図書館にある資料・メディアの種類や特徴、活用方法などを解説して、情報の社会基盤である図書館の資料・メディアの必要性について論じます。

【講義計画】

図書館で扱う、資料・メディアについて、次のようなテーマを中心にして概説します。

1. 資料・メディア論入門
2. 図書館の資料・メディア①図書
3. 図書館の資料・メディア②逐次刊行物
4. 図書館の資料・メディア③ファイル資料
5. 図書館の資料・メディア④視聴覚・デジタル資料
6. 図書館の資料・メディア⑤一般資料～地域資料
7. 蔵書の構成①蔵書構成と資料選択
8. 蔵書の構成②資料の収集と保存
9. 蔵書の構成③蔵書の評価
10. 資料・メディアの歴史
11. 資料・メディアと出版流通
12. 資料・メディアと「図書館の自由」

【成績評価の方法】

期末試験および授業中の課題、出席や受講態度を重視します。また、資格課程科目ですから、授業への出席は勿論、履修にあたって積極的に熱心な姿勢を求めます。

【教科書】

志保田務・山本順一監修『資料・メディア総論』学芸図書、2001

【参考文献】

適宜、講義の中で紹介します。

科 目 名			
図書館通論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	志保田 務

【講義概要・学習目標】

図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をすところかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追求の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界に将来等について検討する。

【講義計画】

- 1 図書館とはなにか
- 2 図書館の果たす役割
- 3 情報の伝達と図書館
- 4 社会、生涯学習と図書館
- 5 図書館の構成要素
- 6 図書館の種類（館種）
- 7 公共図書館：概念
- 8 公共図書館の歴史と現代
- 9 公共図書館の利用者
- 10 図書館の自由
- 11 図書館経営
- 12 図書館と情報化
- 13 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 80%
その他 20%

【教科書】

『図書館概論』改訂版 志保田務[ほか]著 樹村房 2005 1800円

【参考文献】

本学図書館指定図書コーナーあり。

科 目 名			
図書館特論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	志保田 務

【講義概要・学習目標】

現代図書館の諸問題について考察する。問題点の大枠は、図書館情報学の基礎、その情報化、国際化ということである。特に、「情報」に重点をおく。そうしたなかで、サーチャーに光をあてたい。

【講義計画】

インテグレーション授業。計画は仮案であり、少々変更見込み。コンピュータ実習室をおおむね使用する。

- 1 図書館情報学の課題
- 2 図書館と図書館情報学
- 3 図書館と大学教育
- 4 図書館と資料・情報
- 5 図書館利用教育
- 6 図書館施設
- 7 図書館とOPAC
- 8 図書館と情報検索
- 9 図書館とインターネット
- 10 インターネットと英語
- 11 図書館とデータベース利用
- 12 図書館とネットワーク
- 13 図書館と著作権
- 14 図書館情報学の将来
- 15 テスト

【成績評価の方法】

期末テスト 60%
課題 30%
出席 10%

【教科書】

特に指定はしない。プリントその他による。

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
日本近代史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	佐 賀 朝

【講義概要・学習目標】

本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。特に、(1)都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、(2)巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、(3)フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し分析すること、などを重視したい。

まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、第一次大戦期の経済発展や米騒動・住宅問題などの都市社会問題、都市計画や都市社会政策の登場、戦時体制下の市民生活や大阪大空襲などを取り上げ、概観的に論じていく。

また、大阪の歴史に関する博物館の見学にもとづいてレポートを書いてもらうことも予定している。

全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。

【講義計画】

おおむね以下のようなテーマを論じる予定。明治期大阪の都市内地域

- 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立—
- 長町と千日前—貧民移転問題を素材に—
- 工場と地域社会—造幣局を素材に—
- 第一次大戦期の経済発展と都市問題
- 米騒動と階級的な社会運動の展開
- 都市政策の誕生と展開
- 「大大阪」—モダン都市大阪の成立
- 戦時体制下の大阪市民
- 大阪大空襲 ほか

【成績評価の方法】

出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【教科書】

随時、プリント等を配付する。

【参考文献】

- 小山仁示・芝村篤樹『大阪府の百年』（山川出版社、1991年）
 - 原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1998年）
 - 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年）
 - 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年）
- 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。

【備考】

J生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
日本経営論研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	鬼 塚 光 政 正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

1980年代まで高パフォーマンスで国際的に脚光を浴びた「日本の経営」諸慣行・制度の多くは、国内では90年代以降のグローバル化の急速な進展と長期構造の不況の中でかつての輝きを失ってしまった。そして、それに伴い、日本企業はグローバル化への戦略的対応を迫られ、経営の本格的展開を図っており、この傾向は奔流のような勢いで強まっている。

本科目では、このような状況を踏まえて、「グローバル化下の日本企業の経営戦略」という統一テーマで、日本企業は、グローバル化を視座に据えて、経営管理の必要な諸側面で、どのような戦略を採用し、どのような課題の解決を迫られ、どのような成果を上げているか等について研究する。授業は、原則として、本研究科教員による講義と経営の多国籍展開を積極的に行っている先進諸企業で活躍中の実務家・その経験者による事例研究を、テーマ毎にセットにして行うことによって、理論と実践の両面から迫ることになっている。

【講義計画】

<前期>

- オリエンテーション
- 経営基本戦略
- 異文化経営戦略
- 財務戦略
- 研究開発戦略と原価企画

<後期>

- 資材調達戦略
- 人事戦略
- 生産戦略
- マーケティング戦略
- 情報戦略
- 競合国企業の経営戦略

(以上の計画はやむを得ぬ事情で多少変更される場合がある。)

【成績評価の方法】

レポートの成績に、授業中の発言状況、出席状況等を勘案して評価する。
レポート提出は、前期末と後期末の各1回計2回。

【教科書】

各講師の判断に委ねる。

【参考文献】

各講師の判断に委ねる。

【備考】

インテグレーション科目
02B生対象

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4 4	梅 本 哲 世

【講義概要・学習目標】

「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。

【講義計画】

1. 経済史の基本概念
2. 幕末の経済と開港
3. 明治維新
4. 殖産興業
5. 産業革命と軽工業
6. 産業革命と重工業
7. 日清・日露戦争と日本経済
8. 第1次世界大戦と日本経済
9. 1920年代
10. 昭和恐慌
11. 高橋財政
12. 戦時経済

【成績評価の方法】

学期末試験の成績により評価する。

【教科書】

使用しない。プリントを配布する。

【参考文献】

三和良一著『概説日本経済史 近現代〔第2版〕』（東京大学出版会）
石井寛治著『日本経済史〔第2版〕』（東京大学出版会）
安藤良雄編『近代日本経済史要覧』（東京大学出版会）

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
日本経済史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	山 田 雄 久

【講義概要・学習目標】

徳川期以降の市場経済を分析することにより、日本経済の成長史について講義する。大坂を中心とする問屋制の成立から、大正期以降の本格的工業化までの時代を取り上げる。とりわけ近代経済システムを特徴づける商品・金融市場や資本・労働市場の発達について詳しく論じる。また、企業や財界の動きを分析するためには、経営史的観点を取り入れることが有効であり、これらの成果についても適宜ふれる予定である。

【講義計画】

1. 幕藩体制下の経済システム
2. 近世経済社会のダイナミズム
3. プロト工業化の時代
4. 明治政府の財政金融政策
5. 近代産業の成立と工業化
6. 輸出主導型経済の発展

【成績評価の方法】

講義中にレポートの提出をお願いする。
学年末試験の成績と総合して評価する。

【教科書】

特になし。

【参考文献】

西川俊作『日本経済の成長史』（東洋経済新報社）
新保博『近代日本経済史』（創文社）
橋本寿朗『近代日本経済史』（岩波書店）
経営史学会『日本経営史の基礎知識』（有斐閣）

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
日本経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	鈴木 健

【講義概要・学習目標】

戦後の日本経済は、政治（外交）＝軍事上の対米従属を前提とする、いわゆる政官財癒着の統治枠組みのもとで、国家が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積を支える経済システムとして再建・確立され、機能してきた。ところが、いまそれが内外に累積する諸矛盾によって機能不全に陥っている。日本経済の根幹をなす大企業＝大銀行システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。

本講義の目標は、こうした行き詰まりに直面する日本経済の現状を理解するのに必要な最低限の基礎的知識について講義し、理解してもらうことにある。

【講義計画】

第1週	ガイダンス、第1章
第2週	第1章
第3週	第2章
第4週	第3章
第5週	第3章
第6週	第4章
第7週	第4章
第8週	第5章
第9週	第5章
第10週	第5章
第11週	第6章
第12週	第6章
第13週	第6章

【成績評価の方法】

学期中に行うテスト（10回）の受験回数（6回以上）と点数（6割以上）を勘案して評価する。

【教科書】

大槻久志『やさしい日本経済の話』
（新日本出版社、2003年）

【参考文献】

井村喜代子『日本経済論』（有斐閣）
橋川武郎『日本の企業集団』（有斐閣）
中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社）
橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会）
大槻久志『金融恐慌とビッグバン』
（新日本出版社、1998年）
工藤晃『現代帝国主義研究』（新日本出版社、1998年）
鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年）
鈴木健『メインバンクと企業集団』
（ミネルヴァ書房、1998年）

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、E生対象外

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	藤原 健

【講義概要・学習目標】

大学に入って、これから学部の留学生として生活していくことになるわけだが、何かにつけていやでも日本語の実力不足を痛感していくのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、大学生生活に慣れたり、専門の科目の勉強などに忙しかったり、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなるのではないかと思う。さらに、今までの初級や中級の「日本語の教科書」に出てきた日本語と、実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。

この授業では、『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）という教材を使って、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をする。これは、他の聞き取り用のようにわざわざ録音されたものではなく、ネイティブの日本人にインタビューしたそのままの録音教材である。

予習も復習も要らないので、とにかく授業にはまじめに取り組んでほしい。

【講義計画】

<聴解練習>

- インタビューのテープを聞く
 - 会話の大意をつかむ
 - シートの問いに従い、聞き直す
 - 設問に答える
 - ストラテジーなどについて考える
 - スクリプトを見ながら再度聞く
- 会話の内容について話し合う
 - タスクシートの設問を利用する

【成績評価の方法】

出席を重視し（年授業回数の3分の2以上が必要）、評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。
詳しくは、授業初回に説明する。

【参考文献】

堀歌子・三井豊子・森松映子（共著）『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	串 田 真知子

【講義概要・学習目標】

大学生活で必要とされる日本語能力のうち「話す」「書く」ことを中心に、日本語で考え、その考えを日本語で「話す」「書く」ことにより表現することを学習の目的としている。具体的な学習内容としては、「書く」学習では、レポートなどの専門的な文章を書くために必要な表現・文法・文構成や日本語作文の基礎的知識を学び、「話す」学習では、スピーチ・ディベートなどを通して自分の考えを伝えるために必要な表現や質疑応答の方法について学ぶ。

【講義計画】

- ① 講義ノートの作成方法
- ② 日本語作文の基礎的知識
- ③ スピーチの表現技術
- ④ ディベートのルールと表現方法
- ⑤ レポートの語彙・文型・表現の学習
- ⑥ レポートの構成
- ⑦ 図表の提示・引用・要約の方法

以上を重層的に学習する。
毎回、課題を課し、語彙テストも行う。

【成績評価の方法】

試験50%、出席20%、提出物20%、語彙テスト10%で総合評価する。

【教科書】

『留学生のための論理的な文章の書き方 (改訂版)』二通信子・佐藤不二子著 スリーエーネットワーク

【参考文献】

『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』佐々木瑞枝他
ジャパンタイムズ
『日本語の表現技術 読解と作文 (上級)』倉八順子著 古今書店
『よく使うカタカナ語』小田知子 アルク

科 目 名			
日本語 I a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	春学期集中	2	清 水 明 子
04	秋学期集中	2	

【講義概要・学習目標】

日本語の四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。

【講義計画】

日本語 1 a : 読解・聴解・文字語彙
日本語 1 b : 文法・文字語彙

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【教科書】

読解：『日本語中級J301 基礎から中級へ』土岐哲他
スリーエーネットワーク
なお、開講後にレベルチェックをした上で変更する可能性がある
ので、開講前に準備する必要はない。

【参考文献】

なし

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	吉 岡 美 穂

【講義概要・学習目標】

日本語の学習はコミュニケーションのための重要な道具となるが、それだけでは日本の文化を理解することはできない。このクラスでは、言語のしくみと働きに焦点をあて、さまざまな角度から、「ことばと文化」のおもしろさを学んでいく。

【講義計画】

このクラスでは、読解を中心に行い、内容を文章で要約する練習を行う。異文化に関する記事や文献を新聞、雑誌、小説から抜粋し、理解しながら、エクササイズを用いて異文化理解を深めていく。

【成績評価の方法】

出席、定期試験、宿題、レポート、授業への参加度、態度。

【教科書】

資料は教員が準備する。図書館にある参考文献についても授業で紹介する。辞書を必ず持参すること。

【参考文献】

「異文化コミュニケーション入門」池田理知子（有斐閣アルマ）

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	清 水 明 子

【講義概要・学習目標】

留学生の大学生活で必要とされる日本語能力のうち「読む力」「聞く力」を伸ばすことを学習の目的とする。「読む」ことの学習では、専門分野のレポート、論文、専門書などの専門的な文章を読むための基礎的な読解技術を学ぶ。具体的には文章構造・文章の論理構造・文法に関する知識を学び、段落読み・情報検索・アウトライン作成などの読解スキルを身につける。「聞く」ことの学習では、講義を聞き取る力を養成することに重点を置くが、それだけでなく、ニュースや一般的な会話の聞き取りも含めて、実践的・総合的な聴解力を養成する。

【講義計画】

1年を通じて毎時間、「読むこと」「聞くこと」の両方の学習を行う。「読むこと」では前期は基礎的な読解技術を学び、後期は学生の専門分野に合った内容のものを取り上げる予定。「聞くこと」では、レベルとニーズに応じてさまざまな教材を使用していく予定。

【成績評価の方法】

平常点(出席回数、小テスト)と前・後期の定期試験によって評価する。

【教科書】

『大学・大学院留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 アルク
(変更する可能性があるため、開講後に指示するまで購入しなくてよい。)

【参考文献】

『上級の力をつける聴解ストラテジー上・下』川口さち子他 凡人社
『講義を聞く技術』産能短期大学日本語教育研究室編 凡人社

な
行

科 目 名			
日本語 I b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03 04	春学期集中 秋学期集中	2 2	三 木 由 里 子

【講義概要・学習目標】

日本語の四技能を伸ばすとともに、運用力をつける。

【講義計画】

日本語の文法、読解、聴解、漢字などを、レベルに応じて学習する。

【成績評価の方法】

小テスト数回および期末試験を行う。出席を重視する。

【教科書】

初回授業でプレースメントテストを行うなど、学生のレベルを把握したうえで決定する。

【参考文献】

なし

科 目 名			
日本語 II a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	藤 原 健

【講義概要・学習目標】

大学に入って、1年以上経ち、まず何より留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。

日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は思ったように伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。

そして、実際に講義を受けてきて、大学の授業で使われる日本語の語彙や文体の差に驚いたのではないだろうか。

この授業では、昨年度に引き続き、『はじめての専門書』（凡人社）の残りの課を使って、学部の講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、心理学・数学・衛生学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め、内容の把握に努める。なお、昨年度使用した課と違って、今年度の扱う課には助詞相当語はなく、さらに専門的な内容の長文の読解にポイントが移っている。特に予習は要らないが、復習はしっかりしてほしい。

【講義計画】

<読解（精読）練習>

- (1) 各専門分野の文章を読む
 - ・語彙や文型を考える
 - ・内容の把握をする
 - ・シートの設問に答える
- (2) 課によっては要約をする

【成績評価の方法】

出席を重視し（年授業回数の3分の2以上が必要）、評価は進度に応じて年に数回の平常試験で行う。
詳しくは、授業初回に説明する。

【参考文献】

山本一枝・田山のり子・坂本恵（共著）『はじめての専門書』（凡人社）

科 目 名			
日本語Ⅱ a			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	串 田 真知子

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉学・研究に不可欠な論理的思考に基づいた表現能力、特に「書く」「話す」能力の養成を目指している。具体的には日本語によるレポート・研究発表要旨・論文の基本的書き方の学習や、ゼミでの研究発表に備え、プレゼンテーションのやり方（発表原稿を書き、口頭発表を行う）も学習する。

【講義計画】

- ① レポート・論文の基本的書き方
- ② レポート・論文の語彙・文型・表現の学習
- ③ 論文の各構成要素と論理的展開パターンの学習
- ④ 図表の提示・引用・要約の方法
- ⑤ プレゼンテーションの方法

以上を段階的に学習する。毎回、課題を課し、修得状況を確認する。

【成績評価の方法】

試験50%、出席20%、提出物20%、平常点10%で総合評価する。

【教科書】

大学・大学院留学生の日本語④論文作成編／アカデミック・ジャーナリズム研究会編著／アルク

【参考文献】

- 『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他 くろしお出版
『知へのステップ 大学生からのスタディスキルズ』学習技術研究会編著 くろしお
『レポート、論文、プレゼンスキルズ』石坂春秋 くろしお

科 目 名			
日本語Ⅱ b			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	2	吉 岡 美 穂

【講義概要・学習目標】

この授業では、異文化の相互作用によって起こる問題についてディスカッションを行い、他者の意見を尊重し、異なった視点から物事を見る能力を養う。

【講義計画】

異文化理解の文献を中心に読解し、それに関する質問に答え、クラスで発表する。小さいグループに分けて意見交換する。

【成績評価の方法】

出席、定期試験、宿題、レポート、授業への参加度、態度。

【教科書】

資料は教員が準備する。

【参考文献】

「異文化コミュニケーション・新国際人への条件」古田暁（有斐閣選書）

な
行

科 目 名			
日本語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	2	清 水 明 子

【講義概要・学習目標】

専門分野での勉学・研究に必要な日本語力のうち、特に「読む」「聞く」能力の養成・強化を目指す。「読む」ことの学習では、学術論文などの論説文を読むのに必要な文法知識や構造に関する知識を学びながら、各自の専門分野の論文を独力で読んでいくための実践的な読解技術を身につけていく。「聞く」ことの学習では、予測して聞くことに重点を置き、予測の契機となる表現について学ぶ。さまざまなテーマの内容をさまざまなスタイルの話し言葉で聞くことにより、聞いて理解できる内容の幅を広げることがをねらう。

【講義計画】

1年を通して毎時間、読むこと、聞くことの両方に総合的に取り組む。

【成績評価の方法】

平常点(出席回数、小テスト)と前・後期の定期試験によって評価する。

【教科書】

『大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著 アルク
(変更する可能性があるため、開講後に指示するまで購入しなくてよい。)

【参考文献】

『予測して読む聴読解一現代日本事情に関する38章』佐々木瑞枝監修 アルク
『上級の力をつける聴解ストラテジー上・下』川口さち子他 凡人社

科 目 名			
日本語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の質問。「は」に濁点がつくと、「ば」。でも、何故「な」に濁点をつけた「なゝ」は発音できないの? 「大型」は「おおがた」。なのに「大風」は「おおがぜ」とは言わない。何故? 「病気の人」とは言うけど、「元気の人」とは言わないのは何故? 「きれいです」は「きれいだ」とも言えるけど、「うつくしいです」は「うつくしいだ」と言えないのは何故? 「猫が金魚が食べた」は変だけれど、何故、変だと感じるの? この時、頭の中は何がどうなってるの?

日本語の母語話者は日本語を、文法など意識せずに自由に使える。日本語は馬鹿らしい程当たり前のことだ。しかし、日本語の音や文法の法則や仕組みを説明することはできない。(誰でも脳味噌は使えるが、その法則やメカニズムは説明できない。)「経験科学」の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探る。科学は、誰もが当たり前過ぎて考えるのも馬鹿らしいと思う事柄に驚嘆することから始まる。その意味では、「自然言語(ことばをしゃべる)」は「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」とともに科学の格好の対象となる。

日本語を三つの視点から概論する。(1) 生物言語学の視点=自然言語は、自然が創造した脳の突然変異と創発的自己組織化によって出現したが、その一般的性質とは何か?(2) 日本語教育学の視点=日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明とは何か?(3) 哲学的視点=私とは何者なのか? 私はこの宇宙の中で何をし、老い、死んでいくのか?(大学とお寺でしか言われないので我満して考えて下さい。)

【講義計画】

- (1) 音素性の情報処理インターフェースにおける法則とメカニズム(簡単に言えば「音」の問題)
- (2) 文全体の意味素性の情報処理インターフェースに至る過程から音素性が剥ぎ取られた後、音素性の情報処理インターフェースに至る早い段階における法則とメカニズム(簡単に言えば「語」の問題)
- (3) 文全体の意味素性の情報処理インターフェースに至るまでの構造形成過程における原理とメカニズム(簡単に言えば「文」の問題)

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

上山あゆみ(1991)『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』くろしお出版

【参考文献】

北川義久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』研究社

【備考】

<02~05生>

共通自由科目として、L・LE・LI生対象外

J生は、日本語教員資格科目(随意)として履修

科 目 名			
日本語教授法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

どんな教授法（教え方の哲学や方法）、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、（教師のための）実践的な文法整理と、（学習者のための）効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。

一定の制限された状況（教室内）や時間内（初級の集中コースとして例えば週15時間で約6か月）に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別な知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、私は外国語を学ぶのか？何故、私は日本語を外国語として教えるのか？」という問いを問い続けなくてはならない。

【講義計画】

指示表現（コソアド）

形容詞

存在表現

時制（テンス）と相（アスペクト）

保留形（テ系）

願望の助動詞ta/gar

可能の助動詞e/ (ra) re

様態・推量の助動詞ソウダ/ヨウダ/ラシイ

テイル・テアル・テオク（窓ガ開イテイル・開ケテアル・窓ヲ開ケテオク）

授受表現（ヤル・アゲル・モラウ等）

態（受身・使役・使役受身）

条件表現（雨が降ッたら〜・降ルナラ〜・降レバ〜・降ルト〜）

敬語（オ読ミニナル・オ読ミスル・ナサル・イタス）

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

東京YMCA日本語学校（編）（1992）『入門日本語教授法』創拓社

【参考文献】

三浦昭（1983）『初級ドリルの作り方』凡人社

岡崎敏雄（1989）『日本語教育の教材・分析・使用・作成』アルク
Makino, S. and Tsutsui, M. (1986) A dictionary of basic Japanese grammar-日本語基本文法辞典, The Japan Times.

【備考】

<02~04生>

E・SS・SW・B・J生対象は、日本語教員資格科目（随意）として履修

科 目 名			
日本語教授法Ⅱ [4] (旧日本語教授法Ⅱ [2])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

日本語学習者の多様化に対応するために、さまざまな教授法が導入され、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教授法や教材を選択する眼を持たなければなりません。本講では、教授法Ⅲでの実際の模擬授業などに必要な教授法の基本と教材の分析研究を中心に行います。

【講義計画】

- ・いろいろな外国語教授法と日本語教育
- ・コースデザイン
- ・教室活動—初級の教え方（発音／会話、文字／読解）
- ・中上級の教え方（会話／聴解、読解／情報収集）
- ・教科書・教材の分析

【成績評価の方法】

学期の中間期と学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、課題レポートの成績および出席状況を総合的に考慮して評価を行います。資格課程の科目なので、出席は最重要視されます。

【教科書】

『日本語教授法を理解する本 実践編—解説と演習』
（三牧陽子、バベルプレス、1996年）

【参考文献】

『はじめての日本語教育1：日本語教育の基礎知識』
（高見澤孟、アスク）

『はじめての日本語教育2：日本語教育入門』
（高見澤孟、アスク）

『初級ドリルの作り方』（三浦昭、凡人社）

『教え方の基本』（日本語教育演習シリーズ（5）、丸山敬介、凡人社）

『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（松岡弘監修、庵功雄他著、スリーエーネットワーク）

『中上級を教える人のための日本語ハンドブック』（白川博之監修、庵功雄他著、スリーエーネットワーク）

【備考】

<02~03生>

E・SS・SW・B・J生は、日本語教員資格科目（随意）として履修

な
行

科 目 名			
日本語教授法Ⅲ [4] (旧日本語教授法Ⅲ [2])			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人のみの受講を認めます。

【講義計画】

- ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ることを通して比較検討します。
- ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。
- ・グループ単位で実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します(二回)。
- ・実際の日本語授業を見学したり、夏期・春期休暇中に学外(国内・海外)での教育実習(希望者のみ)を行います。

【成績評価の方法】

- ・学期初めにノートを作り毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、定期的にノートを提出します。ノートの内容、出席状況、授業での意見発表などによる授業への貢献度を総合的に判断します。
- ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧してフィードバックします。)
- ・資格課程の最終段階の授業でもあり、出席が最優先されることは言うまでもありません。

【教科書】

特に指定しません。必要に応じて担当教員が用意し配布します。

【参考文献】

- 『教え方の基本』(丸山敬介、京都日本語学校)
『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研)
『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社)
『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス)
『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク)
『子供のための日本語教育』(山本紀美子他、アルク)『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社)
『日本語の地平線』(吉田彌壽夫古稀記念論集編集委員会、くろしお出版)
『日本語教育のための心理学』(海保博之他、新曜社)

【備考】

<02生>
E・S・S・S・W・B・J生は、日本語教員資格科目(随意)として履修

科 目 名			
日本語文法論 (旧日本語文法・文体論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	有 川 康 二

【講義概要・学習目標】

ヒト脳の自然言語計算システムという複雑系で使用される3つの素性(音素性、意味素性、構造素性)のうち、意味素性と構造素性に焦点をあてて論じる。日本語の母語話者の文の容認可能性反応を使用し(思考実験)、自然言語計算システムに関する仮説の構築と検証(それに伴う仮説の修正、破棄)を行う。自然言語の構造とは何か?文生成の過程とはどういうものか?ヒトの幼児が生後数年内に努力なしでどの言語でも獲得できるのは何故か?人称、数などの一致は英語型言語にはあるが日本語にはないと言われるが本当か?そもそも「一致」とは何か?「太郎が花子が好きだ」は主語がいくつ?そもそも「主語」とは何か?「は」と「が」の違いは何か?「昨日、御飯食べた?」に対する否定の答えは「いや、食べなかった」だが、「もう御飯食べた?」に対しては「いや、まだ食べなかった」は変で「まだ食べていない」である。何故か?「猫が金魚を食べた」、「金魚が猫に食べられた」、「私は猫に金魚を食べられた」は何がどう違うのか?何故違うのか?これらの文は、頭の中でどのようにして作られ解釈されているのか?英語の疑問詞は文頭に動き(What did Mary buy?),日本語では動かない(花子は何を買ったの?)と言われるが本当か?自然が創造したヒト脳の計算システムの法則(自然法則)やメカニズムを、日本語という自然言語の観察を通して吟味する。日本語学概論、英語統語論、言語習得論、数学、生物学、自然科学関連の講義も同時に受講することが望ましい。

【講義計画】

日本語のきまりと仕組み(母語獲得の謎、自然法則としての文法)文の構成要素とその種類分け(素性抽出テストを使用して品詞を分類する)
「こと」の類型-述語の種類とその補語との結びつき-(解釈不能素性の存在を助詞を通して確認する)
「主語」「主格」「主題」(主語にまつわる学校文法の嘘)
述語の活用(活用にまつわる学校文法の嘘)
テンス・アスペクト(構造型成駆動力としての解釈不能構造素性)態-ヴォイス-格と動詞の形との相関(脳の他のシステムが言語システムに課す最適化問題の解としての自然言語)
心的態度(ムード)の表現(日本語にも疑問詞移動がある。自然言語システムでも最小エネルギーの法則が働いている。)

【成績評価の方法】

出席・筆記試験

【教科書】

- 寺村秀夫(1978)『日本語の文法(上)』国立国語研究所
寺村秀夫(1981)『日本語の文法(下)』国立国語研究所

【参考文献】

- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版
寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味II』くろしお出版
寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味III』くろしお出版
立石浩一・小泉政利(2001)『文の構造』研究社
西垣内泰介・石居康男(2003)『英語から日本語を見る』研究社
北川義久・上山あゆみ(2004)『生成文法の考え方』研究社

【備考】

<02~04生>
E・S・S・S・W・B・J生対象は、日本語教員資格科目(随意)として履修

科 目 名			
日本史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	寺 木 伸 明

【講義概要・学習目標】

本講義では、日本の歴史を羅列的にはなしに、いくつかの柱を立てて重点的に述べていくことになる。その際、民衆の視点、とくに差別され迫害されてきた民衆の視点で従来の日本史を見直していくよう努力したい。そのことにより、いままで隠されてきた真実や埋もれてきた史実が少しずつ明らかになっていくと思う。歴史とは、単に過去のことを興味本位に断片的に知るのではなく、現在を理解するためにこそ過去の事柄を系統的に理解し、研究することである。日本史を大きな流れにおいて理解できるように工夫をしていきたい。なお、適宜、史料を印刷して配布し、その読解をしていくことになるので、日本史に強い関心と勉学意欲をもち、努力しないと理解は困難になる。そのことを十分承知の上で受講されたい。

【講義計画】

- 1 歴史とは何か
- 2 歴史の見方
- 3 人類と日本人の起源
- 4 縄文・弥生時代の社会と文化
- 5 古代社会と身分制度およびケガレ概念
- 6 中世社会と差別民の文化
- 7 近世社会と身分制度および被差別民の生活
- 8 近現代への展望

なお、私語は厳禁。私語した場合は、直ちに退室を命じる。また、15分たってからの入室は、正当な理由がないかぎり、認めない。

【成績評価の方法】

学期末に実施する試験の成績のみで評価する。

【教科書】

適宜、史料を配布する。

【参考文献】

適宜、指示する。

科 目 名			
日本史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	三 宅 正 彦

【講義概要・学習目標】

古代から現代にいたる日本歴史の展開を身分制とくに良賤制の変遷を中核として追究する。基本史料の読解を重視する。

【講義計画】

- (1) 人権と身分制
- (2) 世界史上の良賤制
- (3) 古代律令制国家と身分制
- (4) 中世荘園制国家と身分制
- (5) 近世幕藩制国家と身分制
- (6) 近代天皇制国家と身分制
- (7) 現代民主制国家と身分制

【成績評価の方法】

期末試験（講義に欠かさず出席して内容の理解に努めれば、単位取得は容易である。欠席したり、授業に集中しなければ、単位取得は困難である。）

【教科書】

資料を配布する。ただし、配布時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席していた人に追加配付はしない。資料を持参するのを忘れて、なくしたりした人に再配付することもしない。毎時資料を持参しなければ、授業理解は困難である。

【参考文献】

授業中にそのつど紹介する。

【備考】

丁生対象外

な
行

科 目 名			
日本事情 [外国人留学生用]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	友 沢 昭 江

【講義概要・学習目標】

この授業は外国人留学生を対象とするもので、留学生にとって関心の高い現代日本社会のさまざまな領域についてテーマを決めて考察します。日本社会についての知識を得るというよりはむしろ、なぜそういう現象があらわれるのかを授業中のディスカッションを通じて、留学生自身が考え、自分の意見を作り上げていくことをめざします。ディスカッションの幅を広げるために、日本語教師をめざす日本人学生にも参加の協力を求める予定です。

【講義計画】

時宜に応じたテーマを設定し、それに関連する新聞や雑誌の記事を読んだり、テレビ番組を材料とします。毎回のテーマごとに課題レポートを出し、授業中に各自がそれに基づいて発表し、他の人の意見を知ることで、さらに考えを深めます。

【成績評価の方法】

出席を第一に重視します。さらに授業中に意見を述べるなどの積極的姿勢や、課題となる宿題や小テスト、学期末の試験の成績などを総合して評価を行います。

【教科書】

指定する教科書はありません。必要な資料は適宜教員が用意、配付します。

【参考文献】

特になし。テーマに応じて授業中に言及します。各自使い慣れた辞書を毎回持参すること。

科 目 名			
日本文化研究－日本思想の諸問題			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	三 宅 正 彦

【講義概要・学習目標】

日本近代の思想的特性を各分野から追究する。基本資料の読解を重視する。

【講義計画】

- (1) 近代日本のアジア観
- (2) 近代日本の伝統観
- (3) 近代日本における天皇観の対立
- (4) 近代日本における革命観の対立

【成績評価の方法】

期末試験（講義に欠かさず出席して内容の理解に努めれば、単位取得は容易である。欠席したり、授業に集中しなければ、単位取得は困難である。）

【教科書】

資料を配付する。ただし、配付時に出席していた人に1回限りで配付する。そのとき欠席した人に追加配布はしない。資料をなくしたり、持参するのを忘れた人に再配付することはしない。毎時資料を持参しなければ、授業理解は困難である。

【参考文献】

授業中にそのつど紹介する。